

## 第2章 調査結果の詳細

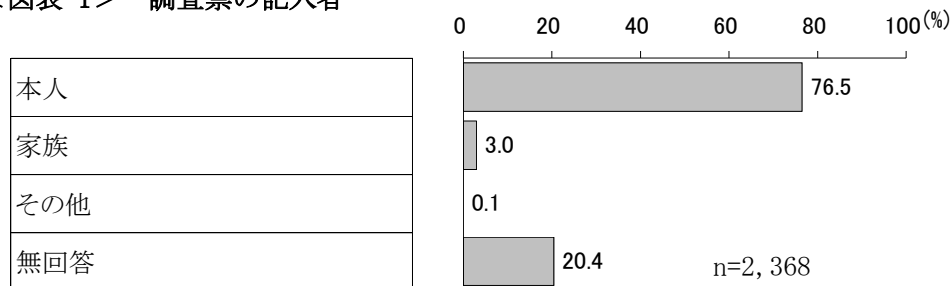


## 2-1 一般高齢者調査

### (1) ご本人について

#### ①調査票の記入者

<図表 1> 調査票の記入者



#### ②現在の状況（本人の不在の事情）

<図表 2> 現在の状況（本人の不在の事情）

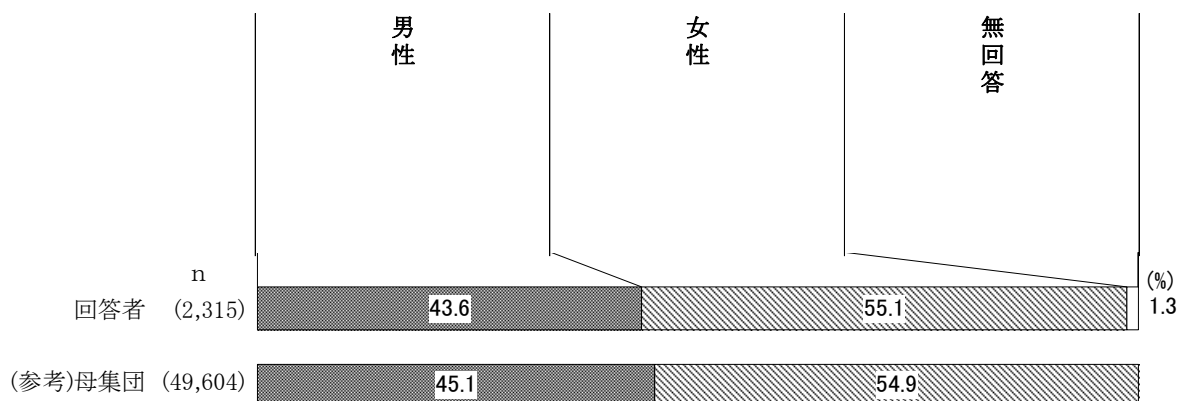
調査数	本人の不在の事情（記入が難しい場合の状況）					非該当
	医療機関 に入院中	福祉施設 に入所中	転居	死亡	その他	
2,368	10	4	6	2	31	2,315

以下、記入のあった2,315人に対する集計結果を示す。

#### ③性別

<図表 3> 性別(母集団との比較)

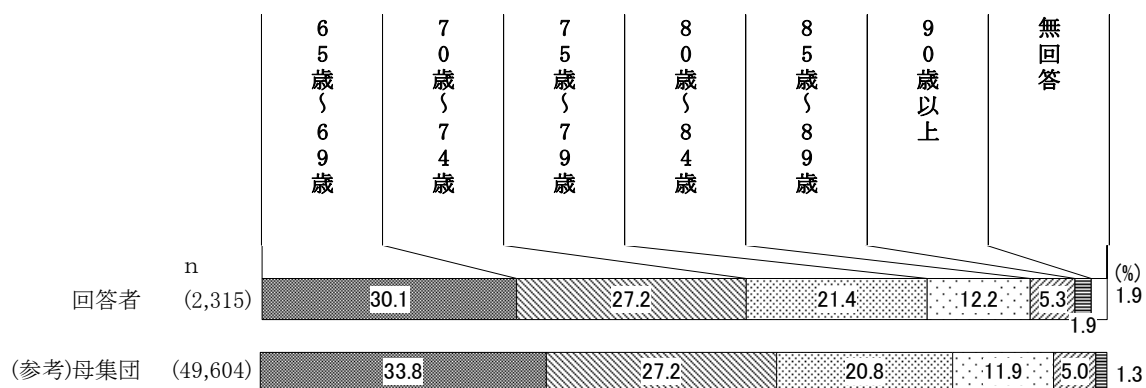
項目	回答者数		(参考) 母集団	
	基数(件)	構成比 (%)	基数(件)	構成比 (%)
男性	1,009	43.6	22,359	45.1
女性	1,275	55.1	27,245	54.9
(無回答)	31	1.3		
合計	2,315	100.0	49,604	100.0



④年齢

<図表 4> 年齢(母集団との比較)

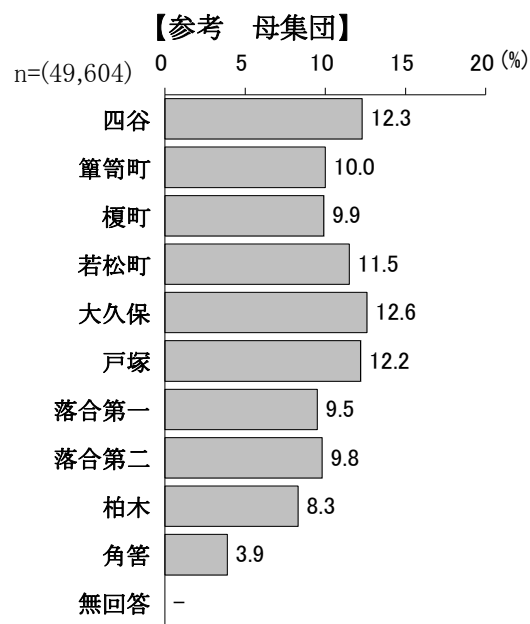
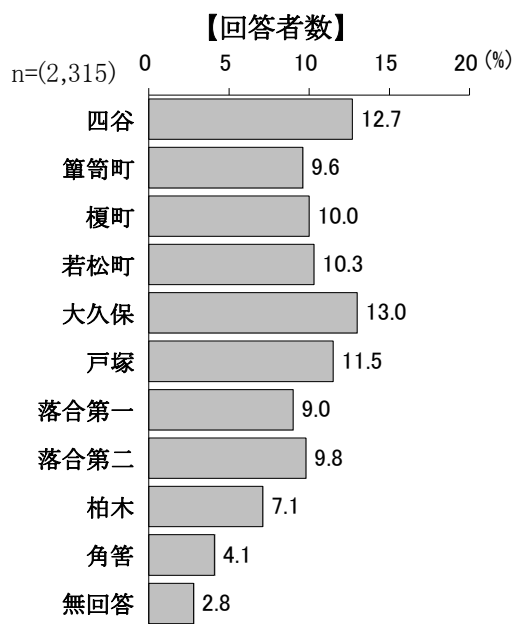
項目	回答者数		(参考) 母集団	
	基数(件)	構成比(%)	基数(件)	構成比(%)
65歳～69歳	697	30.1	16,766	33.8
70歳～74歳	630	27.2	13,472	27.2
75歳～79歳	495	21.4	10,337	20.8
80歳～84歳	282	12.2	5,897	11.9
85歳～89歳	122	5.3	2,481	5.0
90歳以上	45	1.9	651	1.3
(無回答)	44	1.9		
合計	2,315	100.0	49,604	100.0



⑤お住まいの地区

<図表 5> お住まいの地区(母集団との比較)

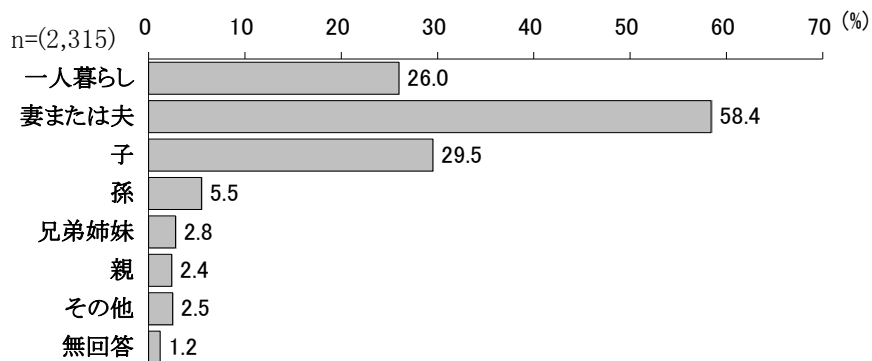
項目	回答者数		(参考) 母集団	
	基数(件)	構成比(%)	基数(件)	構成比(%)
四谷	293	12.7	6,113	12.3
簗笥町	223	9.6	4,948	10.0
榎町	232	10.0	4,934	9.9
若松町	239	10.3	5,681	11.5
大久保	300	13.0	6,270	12.6
戸塚	267	11.5	6,052	12.2
落合第一	209	9.0	4,733	9.5
落合第二	227	9.8	4,840	9.8
柏木	165	7.1	4,103	8.3
角筈	96	4.1	1,930	3.9
(無回答)	64	2.8		
合計	2,315	100.0	49,604	100.0



⑥同居者

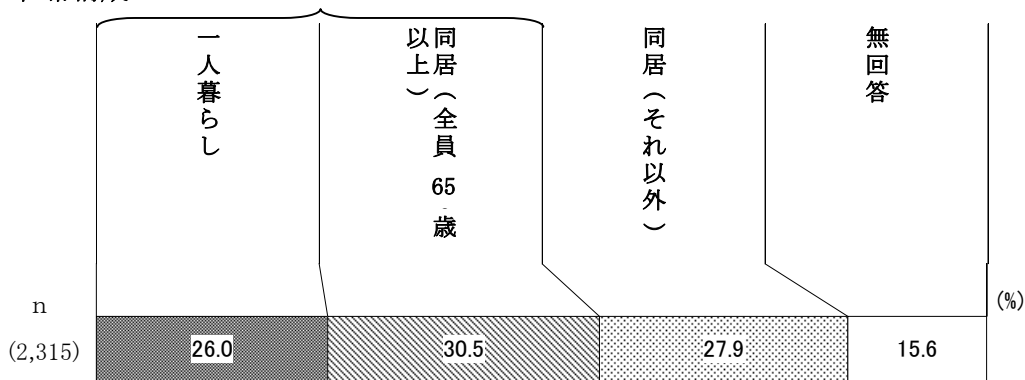
問4 現在、あなたはどなたかと同居していますか。同居している場合は、あなたからみた続柄で、同居している方すべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

<図表 6> 同居者



同居の状態をたずねたところ、「一人暮らし」(26.0%)が2割台半ばを超え、「妻または夫」(58.4%)が6割近く、「子」(29.5%)が3割弱となっている。

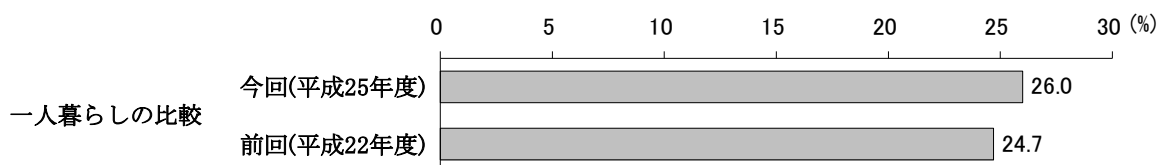
<図表 7> 世帯構成 《高齢者のみ世帯》56.5



※問4の同居者と問4-2の同居者の年齢より集計

世帯構成について、「一人暮らし」(26.0%)と「同居(全員65歳以上)」(30.5%)をあわせた《高齢者のみ世帯》(56.5%)は、5割台半ばを超える。

<図表 8> 一人暮らしの割合 (経年比較)

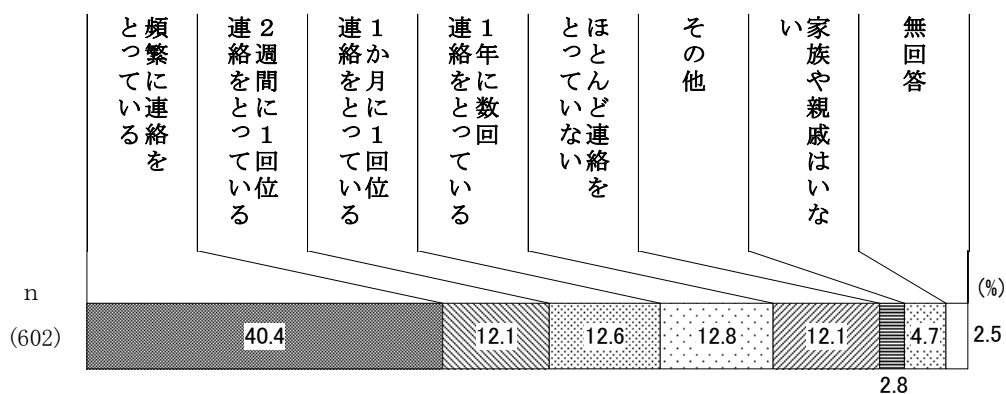


経年比較でみると、「一人暮らし」は、前回調査と大きな差は見られない。

⑦家族や親戚との連絡

問4-1 《問4で「1 一人暮らし」と回答した方のみお答えください》  
 あなたは、ご家族やご親戚と連絡をどのくらいとっていますか。(1つに○)

<図表 9> 家族や親族との連絡

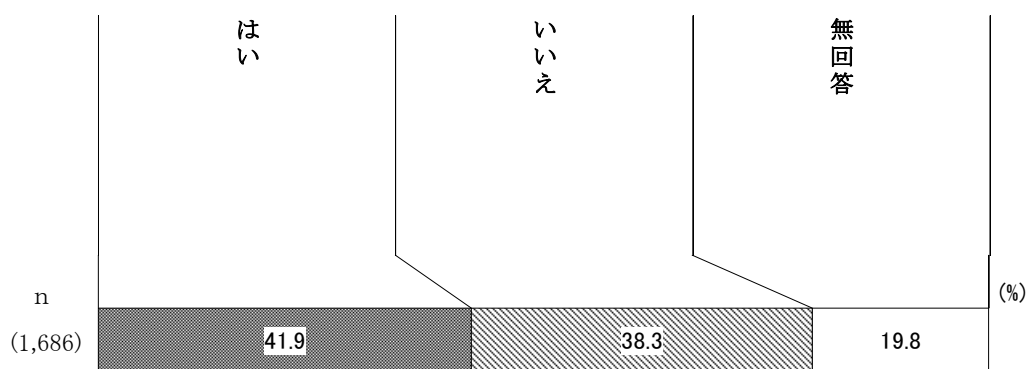


問4で「一人暮らし」と回答した人に家族や親戚と連絡をとっている頻度をたずねたところ、「頻繁に連絡をとっている」(40.4%)が約4割で最も高くなっている。

⑧同居者の年齢 (全員65歳以上か否か)

問4-2 《問4で「2」～「7」と回答した方のみお答えください》  
 同居の方は、全員65歳以上ですか。(1つに○)

<図表 10> 同居者の年齢 (全員65歳以上か否か)

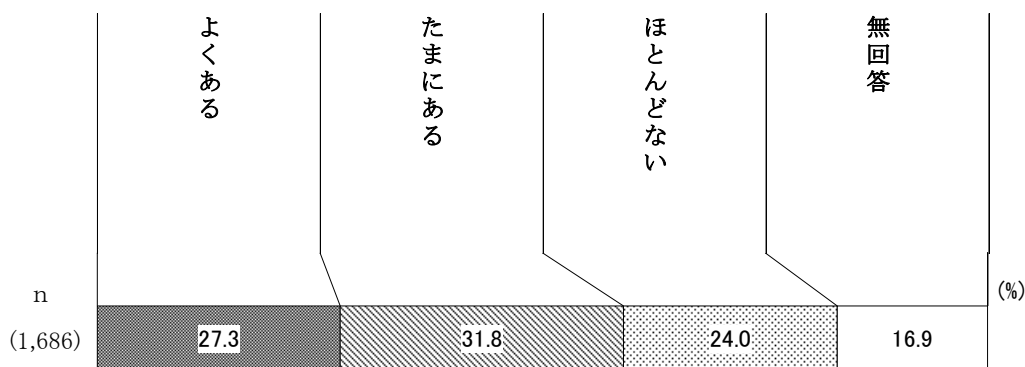


問4で《同居者がいる》と回答した人に同居者が全員65歳以上かたずねたところ、「はい」(41.9%)は4割強、「いいえ」(38.3%)は4割近くとなっている。

⑨日中の独居状況

問4-3 《問4で「2」～「7」と回答した方のみお答えください》  
 日中、一人になることはありますか。(1つに○)

<図表 11> 日中の独居状況

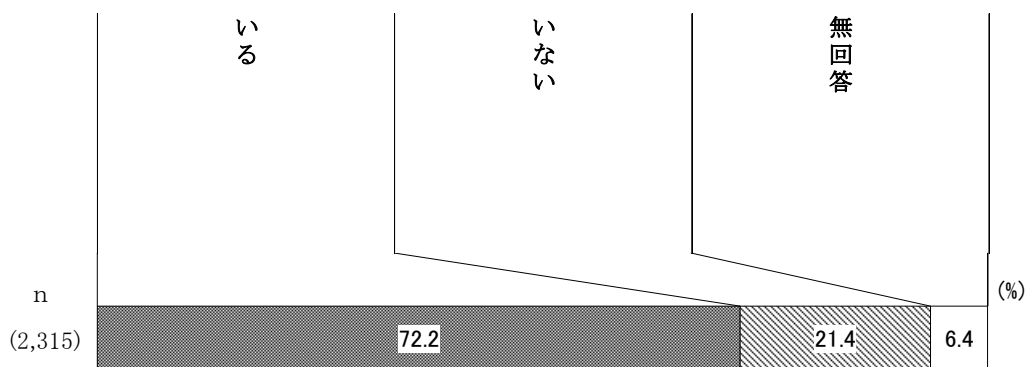


問4で《同居者がいる》と回答した人に日中一人になることがあるかたずねたところ、「たまにある」(31.8%)が3割強で最も高く、次いで、「よくある」(27.3%)が2割台半ばを超え、「ほとんどない」(24.0%)が2割台半ば近くとなっている。

⑩同居者以外に手助けを頼める人の有無

問5 あなたが日常生活で困ったことがあった時、同居者以外に誰か手助けを頼める人がいますか。(1つに○)

<図表 12> 同居者以外に手助けを頼める人の有無



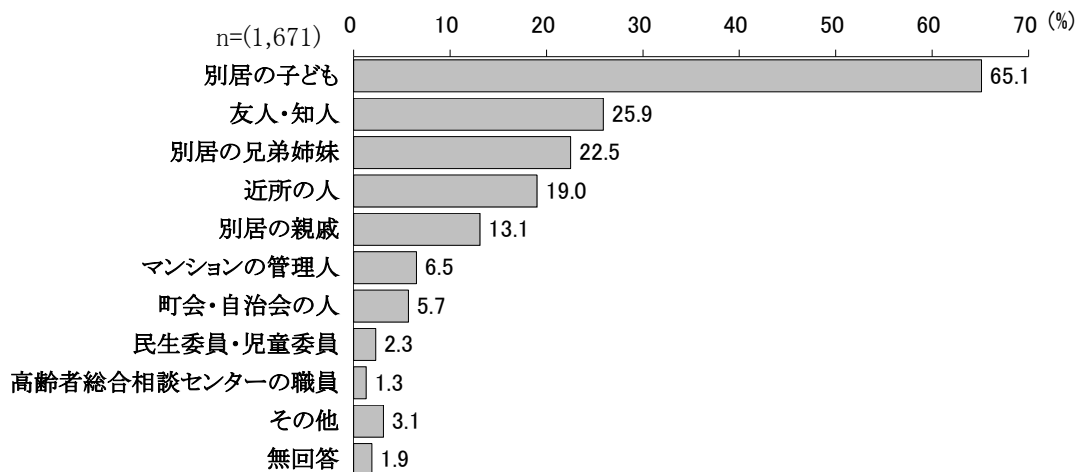
同居者以外に日常生活で困った時に手助けを頼める人の有無をたずねたところ、「いる」(72.2%)は7割強、「いない」(21.4%)は2割強となっている。



⑪手助けを頼める人

問5-1 《問5で「1 いる」と回答した方のみお答えください》  
手助けを頼める人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 13> 手助けを頼める人

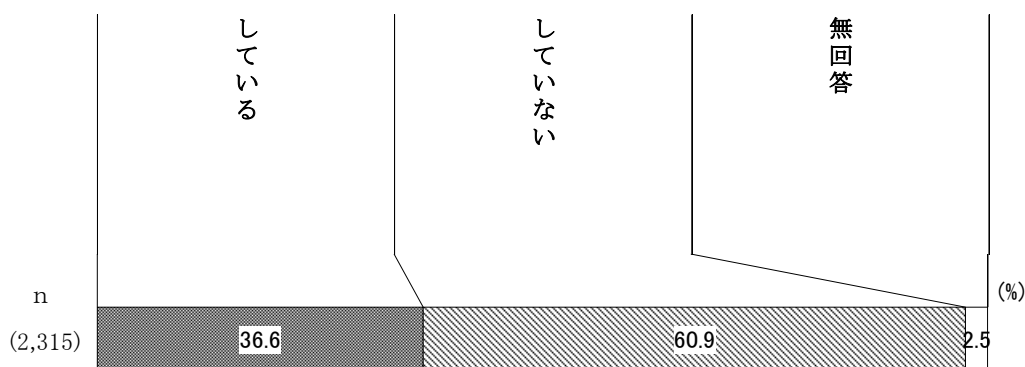


問5で同居者以外に手助けを頼める人が「いる」と回答した人に、その依頼先をたずねたところ、「別居の子ども」(65.1%)が6割台半ばと最も高く、次いで、「友人・知人」(25.9%)が2割台半ば、「別居の兄弟姉妹」(22.5%)が2割強となっている。

⑫就業状況

問6 あなたは、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

<図表 14> 就業状況

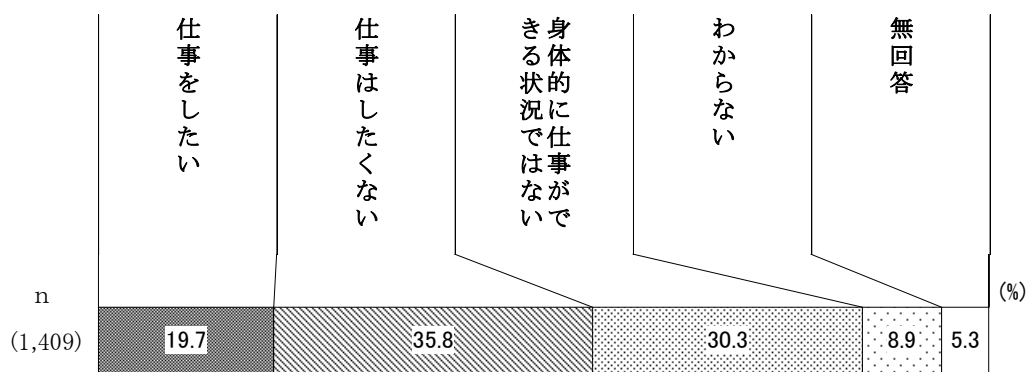


就業状況をたずねたところ、収入のある仕事を「している」(36.6%)は3割台半ばを超え、「していない」(60.9%)は約6割となっている。

⑬今後の就業意向

問6-1 <<問6で「2 していない」と回答した方のみお答えください>>  
 今後、仕事をしたいと思えますか。(1つに○)

<図表 15> 今後の就業意向

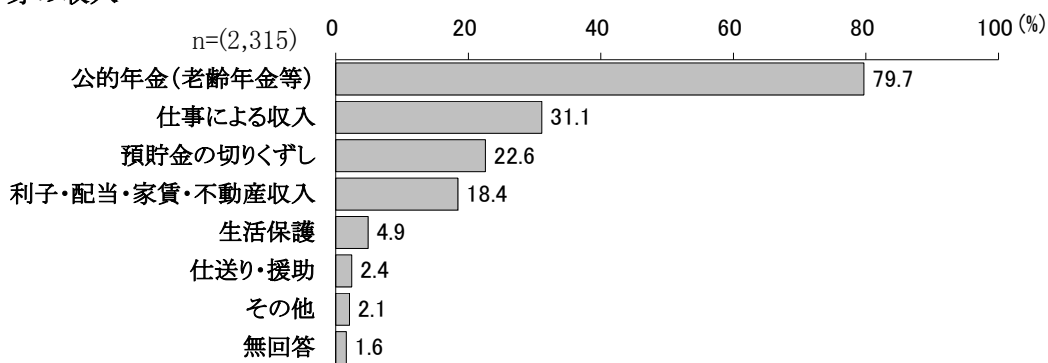


問6で収入のある仕事を「していない」と回答した人に今後の就業意向をたずねたところ、「仕事はしたくない」(35.8%)が3割台半ばで最も高く、次いで、「身体的に仕事ができる状況ではない」(30.3%)が約3割となっている。一方「仕事をしたい」(19.7%)が2割弱となっている。

⑭自身の収入

問7 あなたご本人の収入は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 16> 自身の収入

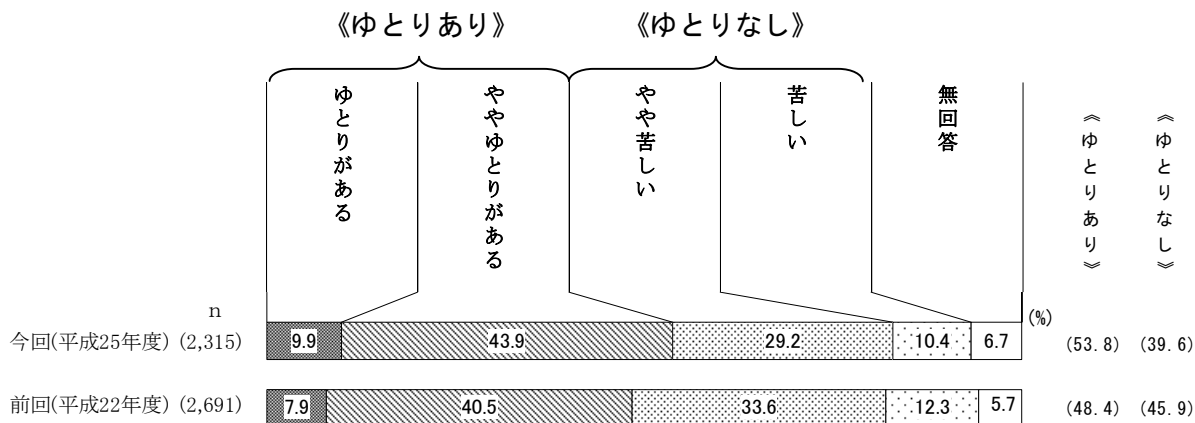


自身の収入についてたずねたところ、「公的年金(老齢年金等)」(79.7%)が8割弱と最も高く、次いで、「仕事による収入」(31.1%)が3割強、「預貯金の切りくずし」(22.6%)が2割強となっている。

⑮現在の暮らし向き

問8 あなたは、あなたの現在の暮らし向きをどのように感じていますか。(1つに○)

<図表 17> 現在の暮らし向き(経年比較)



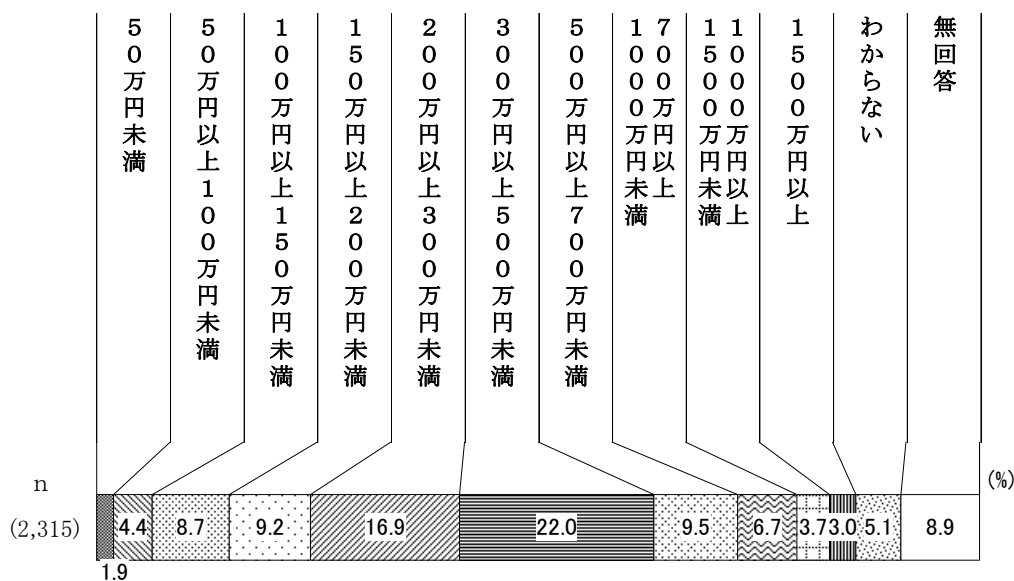
現在の暮らし向きについてたずねたところ、「ゆとりがある」(9.9%)と「ややゆとりがある」(43.9%)をあわせた《ゆとりあり》(53.8%)が5割台半ば近くとなっている。

経年比較でみると、《ゆとりあり》は、前回調査に比べ、5.4ポイント高くなっている。

⑯昨年1年間の自身と家族の年間収入総額

問9 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入(税込)総額はどれくらいですか。(1つに○)

<図表 18> 昨年1年間の自身と家族の年間収入総



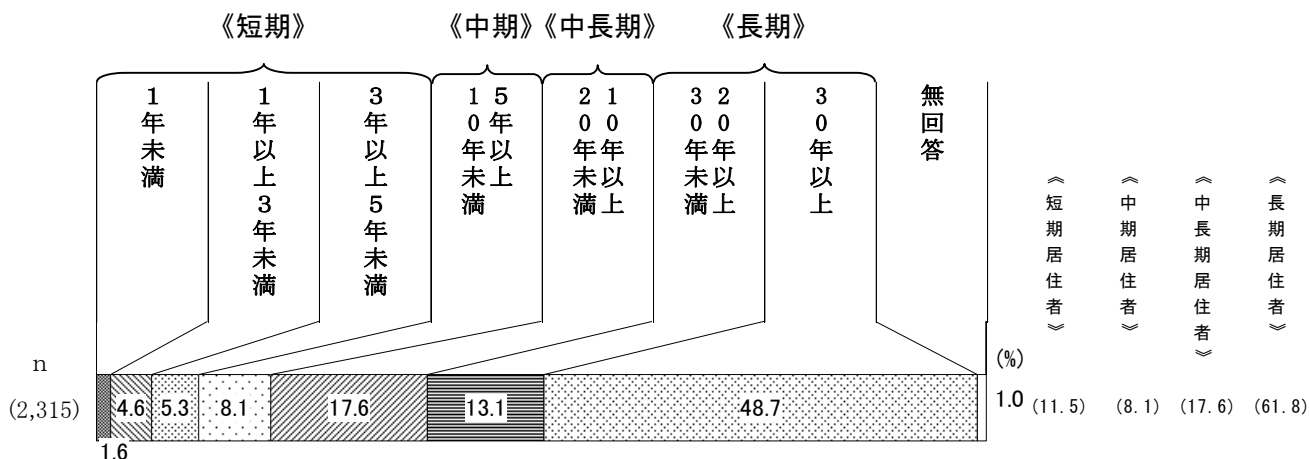
昨年1年間の自身と家族の年間収入総額についてたずねたところ、「300万円以上500万円未満」(22.0%)が2割強で最も高く、次いで、「200万円以上300万円未満」(16.9%)が1割台半ばを超える。

(2) お住まいについて

① 居住年数

問10 あなたは、現在のお住まいに何年住んでいますか。(1つに○)

<図表 19> 居住年数

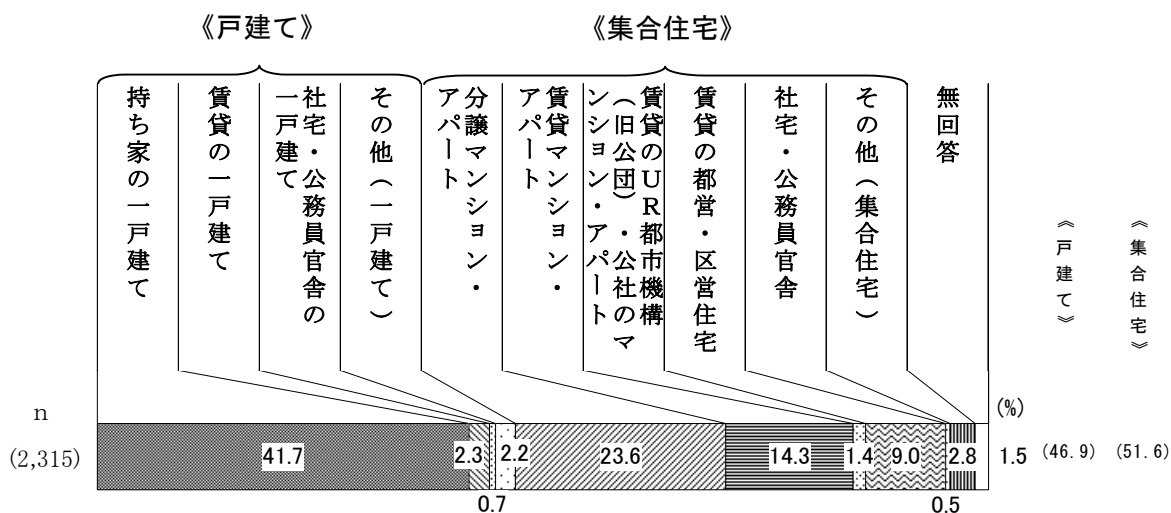


居住年数についてたずねたところ、「20年以上30年未満」(13.1%)と「30年以上」(48.7%)をあわせた《長期居住者》(61.8%)は6割強となっている。

② 住まいの形態

問11 あなたの現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表 20> 住まいの形態

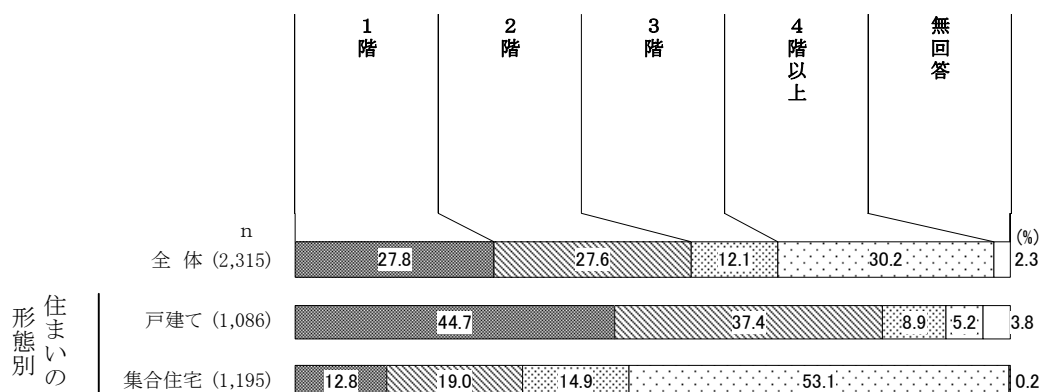


住まいの形態についてたずねたところ、「持ち家の一戸建て」(41.7%)が4割強で最も高く、次いで、「分譲マンション・アパート」(23.6%)が2割台半ば近くとなっている。《集合住宅》(51.6%)は5割強となっており、《戸建て》(46.9%)より4.7ポイント高くなっている。

③主に生活している階数とエレベーターの設置状況

問12 ①あなたが主に生活しているのは何階ですか。

<図表 21> 主に生活している階数(住まいの形態別)

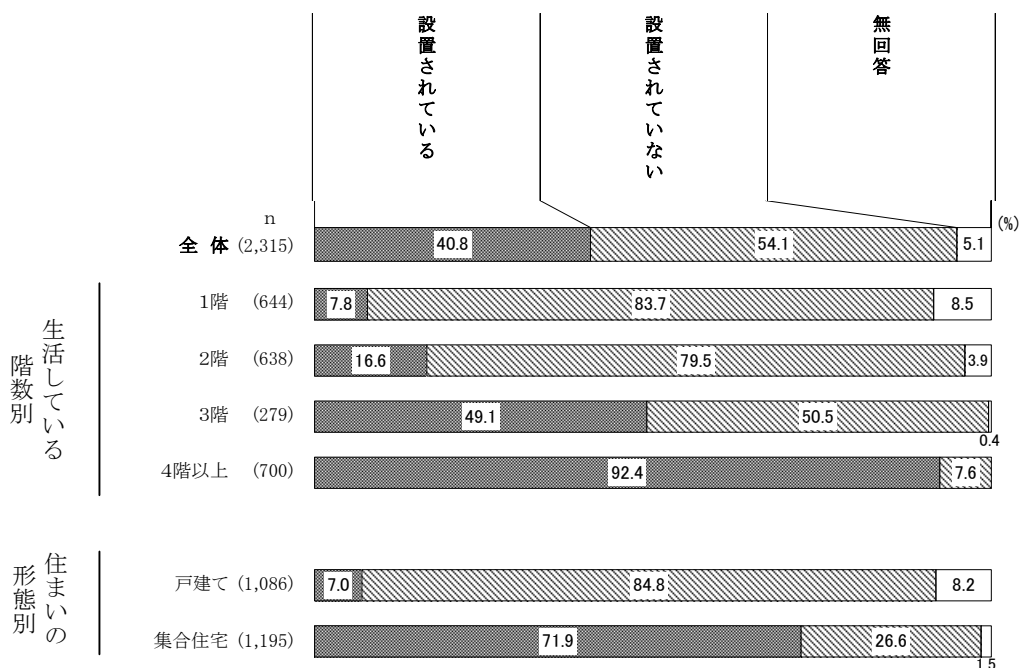


主に生活している階数をたずねたところ、《戸建て》では「1階」(44.7%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「2階」(37.4%)、「3階」(8.9%)となっている。

《集合住宅》では「4階以上」(53.1%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで、「2階」(19.0%)、「3階」(14.9%)となっている。

②エレベーターは設置されていますか。(1つに○)

<図表 22> エレベーターの設置状況(生活している階数別/住まいの形態別)



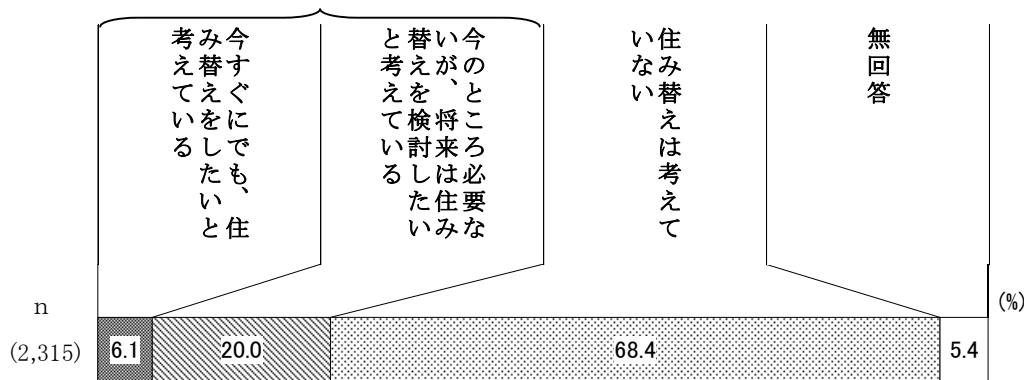
エレベーターの設置についてたずねたところ、《集合住宅》では「設置されている」(71.9%)が約7割強、「設置されていない」(26.6%)が2割台半ばを超える。

④ 住み替えの意向

問13 あなたは、現在のお住まいからの住み替え（引っ越しを含む）を考えていますか。（1つに○）

<図表 23> 住み替えの意向

《住み替え意向》 26.1

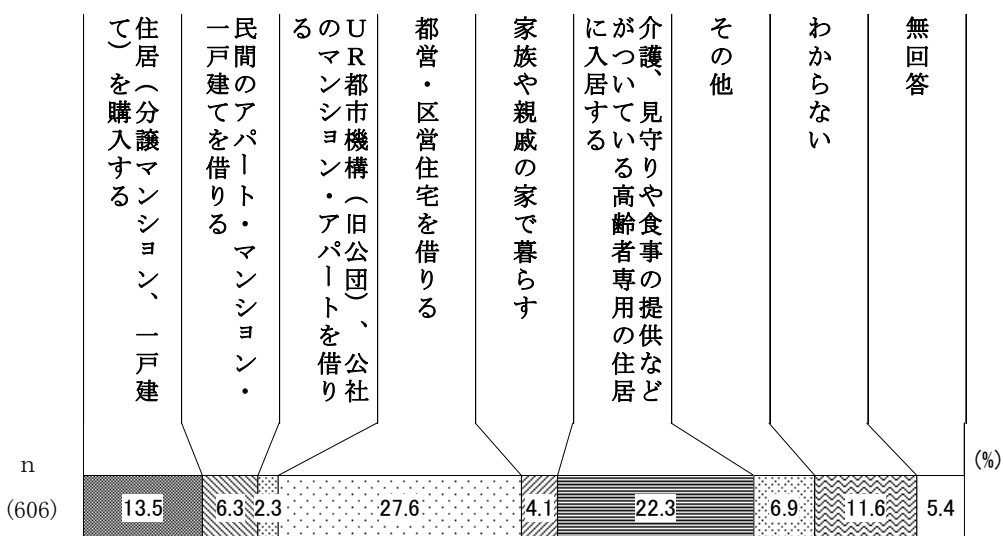


住み替えの意向をたずねたところ、「今すぐにも、住み替えをしたいと考えている」(6.1%)と「今のところ必要ないが、将来は住み替えを検討したいと考えている」(20.0%)をあわせた《住み替え意向》(26.1%)は2割台半ばを超える。

⑤ 住み替え先の形態

問13-1 《問13で「1」または「2」と回答した方のみお答えください》  
住み替え先は、どのような形を考えていますか。（1つに○）

<図表 24> 住み替え先の形態

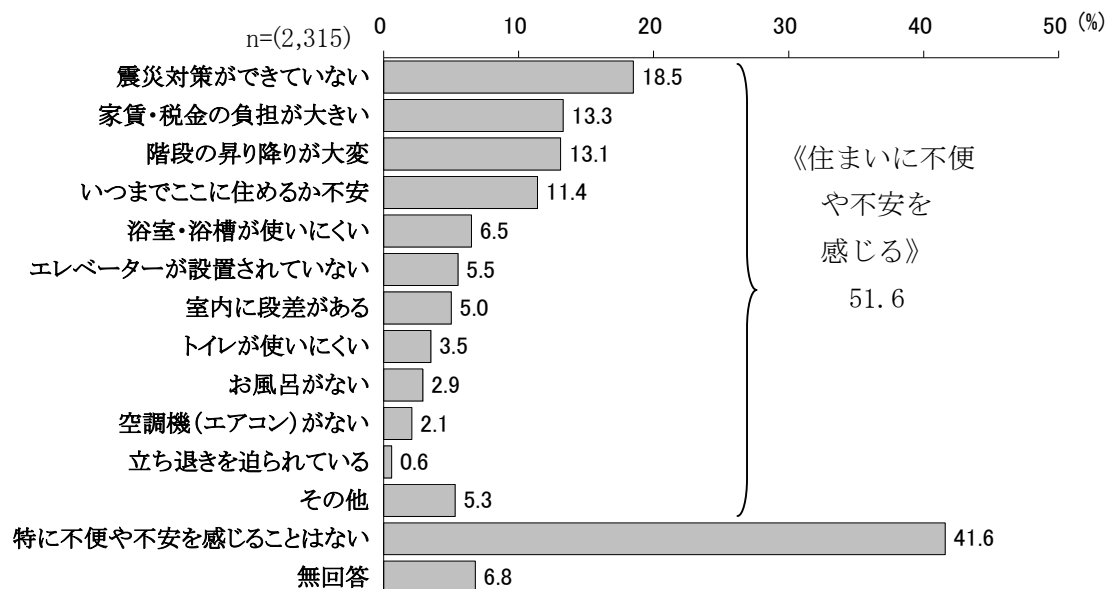


問13で現在の住まいからの住み替えを考えている人に、住み替え先の形態をたずねたところ、「都営・区営住宅を借りる」(27.6%)が2割台半ばを超え、最も高くなっている。

## ⑥現在の住まいにおける不便・不安

問14 あなたが、現在のお住まいで、不便や不安を感じていることは、次のうちどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表 25> 現在の住まいにおける不便・不安



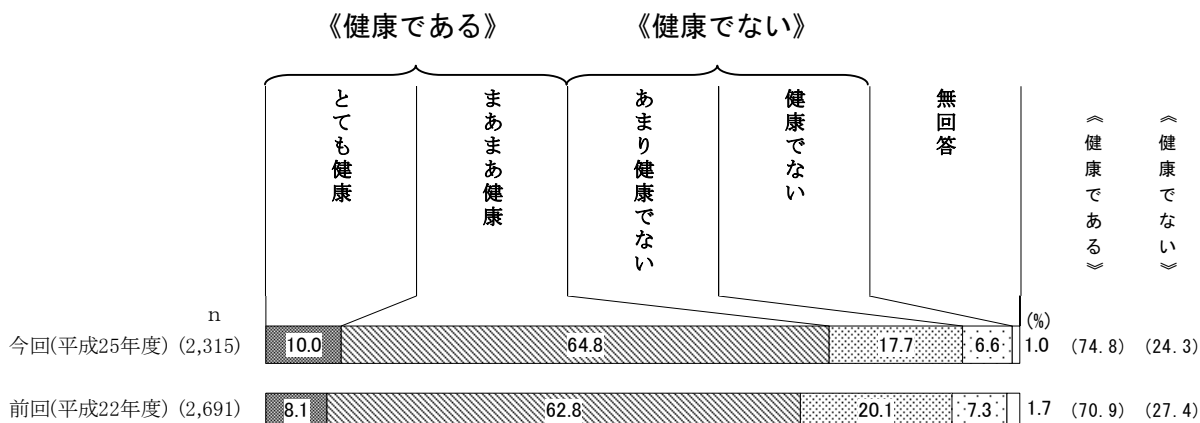
現在の住まいで、不便や不安を感じていることをたずねたところ、《住まいに不便や不安を感じる》(51.6%)が5割強となっている。不便や不安を感じる内容としては、「震災対策ができていない」(18.5%)、「家賃・税金の負担が大きい」(13.3%)、「階段の昇り降りが大変」(13.1%)となっている。

(3) 健康状態などについて

①健康状態

問15 あなたは、健康だと思いますか。(1つに○)

<図表 26> 健康状態(経年比較)



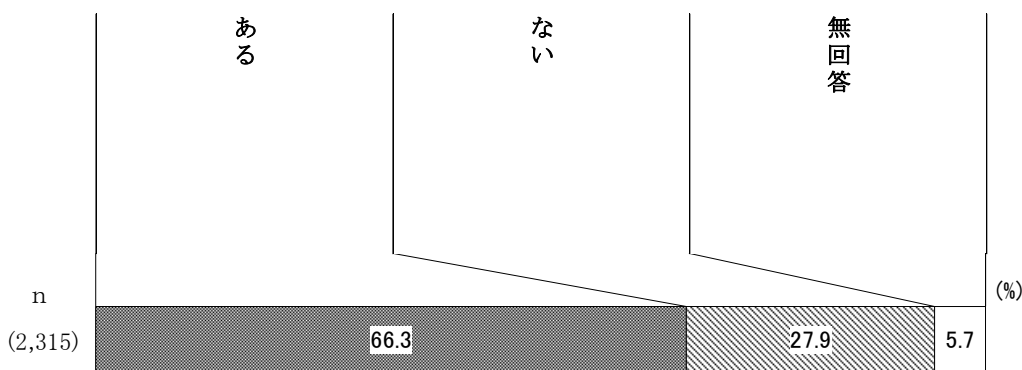
自身の健康状態についてたずねたところ、「とても健康」(10.0%)と「まあまあ健康」(64.8%)をあわせた《健康である》(74.8%)が7割台半ば近くとなっている。

経年比較でみると、《健康である》は、前回調査に比べ、3.9ポイント高くなっている。

②治療中の病気の有無

問16 あなたは、現在治療中の病気がありますか。(1つに○)

<図表 27> 治療中の病気の有無



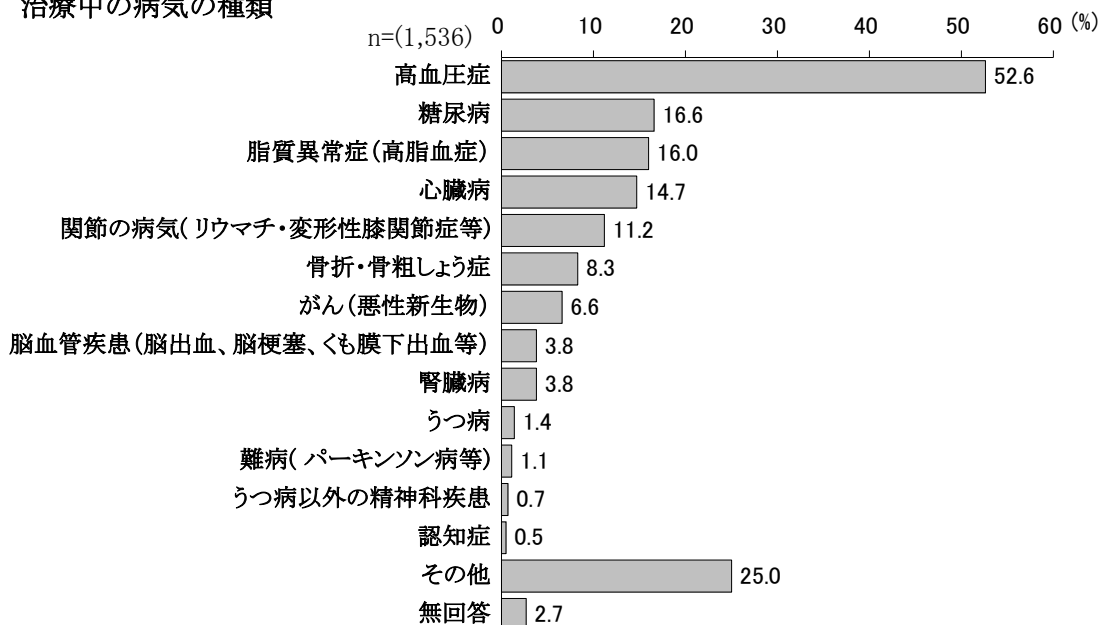
現在治療中の病気の有無をたずねたところ、「ある」(66.3%)が6割台半ばを超える。



## ③治療中の病気の種類

問16-1 《問16で「1 ある」と回答した方のみお答えください》  
治療中の病気は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 28> 治療中の病気の種類

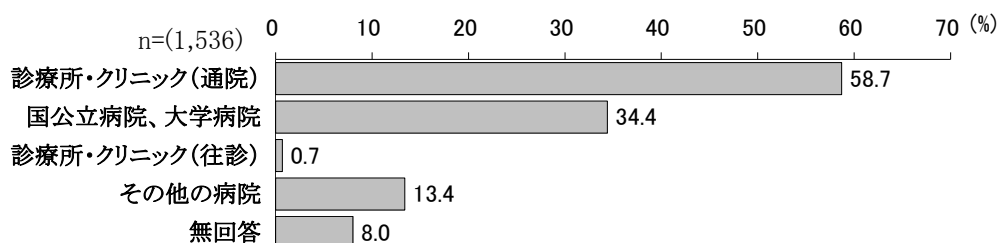


問16で治療中の病気が「ある」と回答した人に治療中の病気についてたずねたところ、「高血圧症」(52.6%)が5割強と最も高くなっている。「その他」では、眼の病気、呼吸器の病気、腎臓・尿器、食道・胃・腸の病気、腰痛といった内容が多くあげられた。

## ④受診している医療機関

問16-2 《問16で「1 ある」と回答した方のみお答えください》  
受診している医療機関は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 29> 受診している医療機関

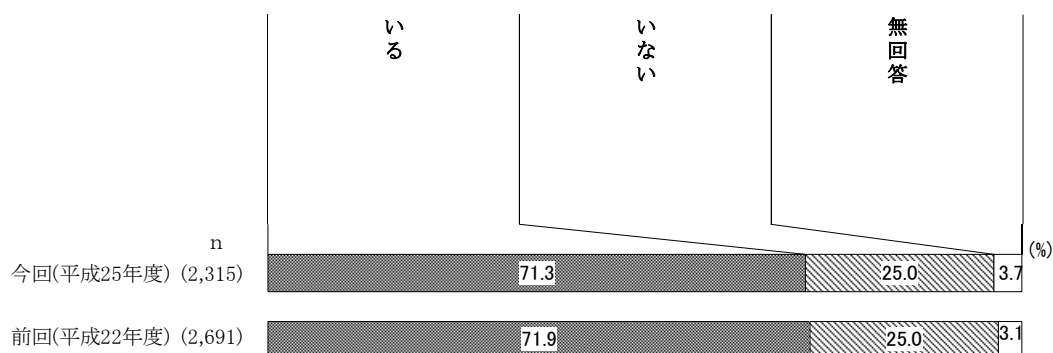


問16で治療中の病気が「ある」と回答した人に受診している医療機関についてたずねたところ、「診療所・クリニック(通院)」(58.7%)が6割近くで最も高く、次いで、「国公立病院、大学病院」(34.4%)が3割台半ば近くとなっている。

⑤かかりつけ医の有無

問17 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所の「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

<図表 30> かかりつけ医の有無(経年比較)



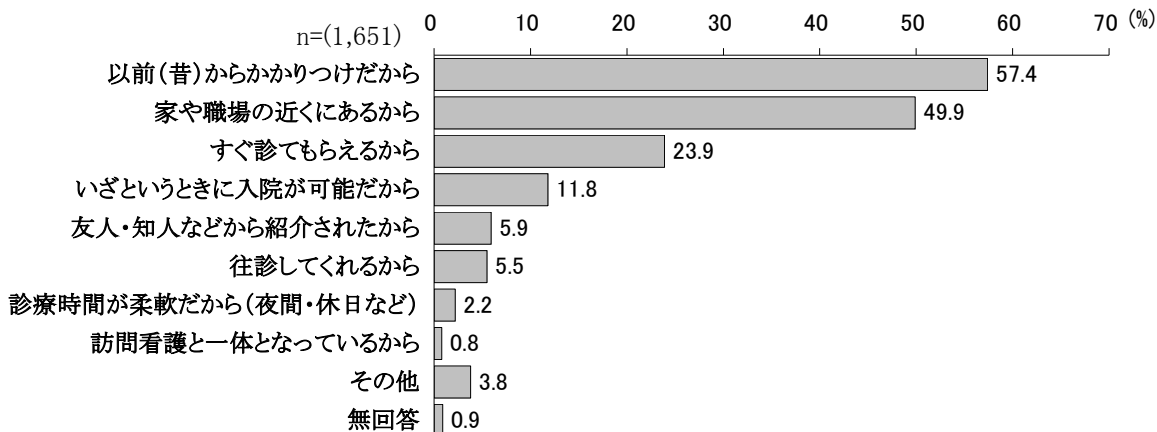
かかりつけ医の有無をたずねたところ、「いる」(71.3%)は7割強、「いない」(25.0%)は2割台半ばとなっている。

経年比較でみると、「いる」は、前回調査と大きな差は見られない。

⑥かかりつけ医を選んだ理由

問17-1 <<問17で「1 いる」と回答した方のみお答えください>>  
その診療所の「かかりつけ医」を選んだ理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 31> かかりつけ医を選んだ理由

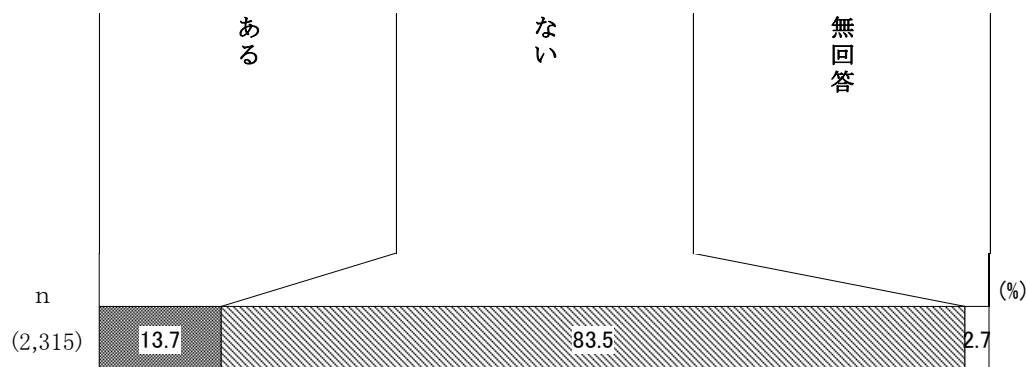


問17でかかりつけ医が「いる」と回答した人にかかりつけ医を選んだ理由をたずねたところ、「以前(昔)からかかりつけだから」(57.4%)が5割台半ばを超え最も高く、次いで、「家や職場の近くにあるから」(49.9%)が5割弱、「すぐ診てもらえるから」(23.9%)が2割台半ば近くとなっている。

⑦過去1年間の入院経験

問18 あなたは、過去1年以内に入院した経験がありますか。(1つに○)

<図表 32> 過去1年間の入院経験



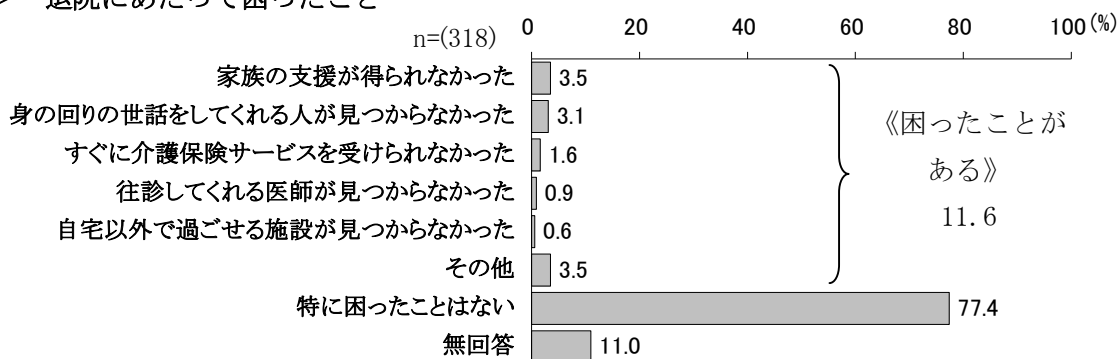
過去1年間の入院経験の有無をたずねたところ、「ある」(13.7%)は1割台半ば近く、「ない」(83.5%)は8割台半ば近くとなっている。

⑧退院にあたって困ったこと

問18-1 <<問18で「1 ある」と回答した方のみお答えください>>

退院にあたって困ったことは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 33> 退院にあたって困ったこと

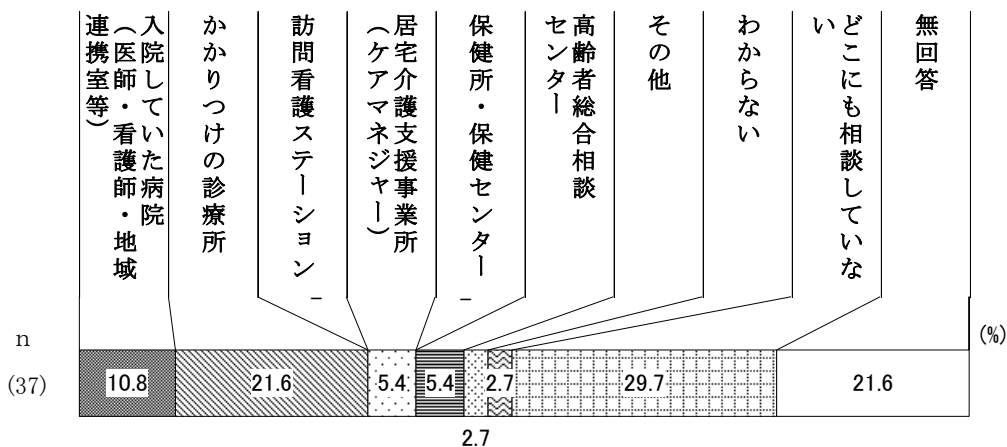


問18で過去1年間に入院した経験が「ある」と回答した人に、退院にあたって困ったことをたずねたところ、《困ったことがある》(11.6%)は1割強となっている。具体的な内容としては、「家族の支援が得られなかった」(3.5%)、「身の回りの世話をしてくれる人が見つからなかった」(3.1%)となっている。

⑨退院時の最初の相談先

問18-1-1 <<問18-1で「1」～「6」と回答した方のみお答えください>>  
 退院にあたって、自宅で治療や介護を受けるのに困った時、最初にどこに相談しましたか。(1つに○)

<図表 34> 退院時の最初の相談先



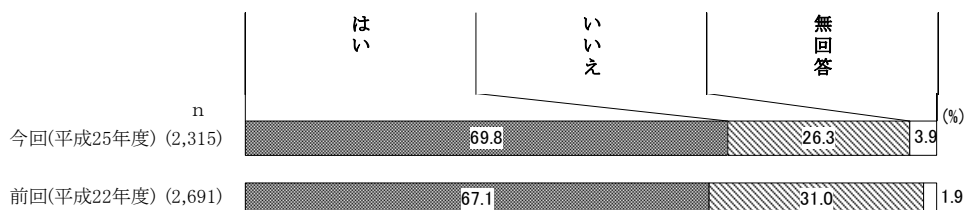
問18-1で退院時に《困ったことがあった》と回答した人に、最初に相談したところをたずねたところ、「どこにも相談していない」(29.7%)が3割弱と最も高く、次いで、「かかりつけの診療所」(21.6%)が2割強となっている。

⑩歯科について

問19 歯科についておたずねします。アからオまですべての質問にお答えください。  
(それぞれ1つに○)

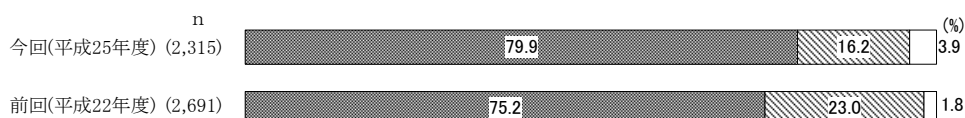
<図表 35> 歯科について(一部、経年比較)

ア. あなたは、1年以内に歯科を受診しましたか



1年以内の歯科受診の有無をたずねたところ、「はい」(69.8%)は7割弱となっている。経年比較でみると、「はい」は、前回調査と大きな差は見られない。

イ. あなたは、治療や予防のために気軽に受診できる「かかりつけ歯科医」がいますか



かかりつけ歯科医の有無をたずねたところ、「はい」(79.9%)は8割弱となっている。経年比較でみると、「はい」は、前回調査に比べ、4.7ポイント高くなっている。

ウ. あなたは、硬い物が食べにくいですか



硬いものの食べにくさの有無をたずねたところ、「はい」(32.4%)は3割強となっている。

エ. あなたは、食事中に、むせることがありますか



食事中にむせることの有無をたずねたところ、「はい」(17.4%)は1割台半ばを超える。

オ. あなたは、往診してくれる歯科医院があることをご存知ですか



往診してくれる歯科医の認知度をたずねたところ、「はい」(27.2%)は2割台半ばを超える。

(4) 日ごろの生活について

①自身の毎日の生活と心の状況

問20 ①あなたの毎日の生活について、アからチのすべての質問にお答えください。  
(それぞれ1つに○)

<老研式活動能力指標 (13項目) >

手段的 動作 日常生活	ア. バスや電車を使って一人で外出できますか (自分で車を運転することも可) イ. 日用品の買い物ができますか ウ. 自分で食事の用意ができますか エ. 請求書の支払いができますか オ. 預貯金の出し入れができますか
知的 能動性	カ. 年金などの書類が書けますか キ. 新聞を読んでいますか ク. 本や雑誌を読んでいますか ケ. 健康についての記事や番組に関心がありますか
社会的 役割	コ. 友人の家を訪ねることがありますか サ. 家族や友人の相談にのることがありますか シ. 病人を見舞うことができますか ス. 若い人に自分から話しかけることがありますか

<それ以外の項目 (4項目) >

- セ. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか
- ソ. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか
- タ. 今日が何月何日かわからない時がありますか
- チ. 5分前のことが思い出せますか

※「老研式活動能力指標」は、東京都健康長寿医療センター（旧「東京都老人総合研究所」）において開発された、定評ある高齢者の活動能力指標で、高齢者の手段的日常生活動作（IADL）、知的能動性、社会的役割といった生活機能13項目から測定する。

「はい」を1点として、13点満点で点数化した。点数が高いほど、高次の生活機能が高いと言われる。老研指標総合評価として、11点以上を「高い」、9点～10点を「やや低い」、8点以下を「低い」として、3区分で集計した。

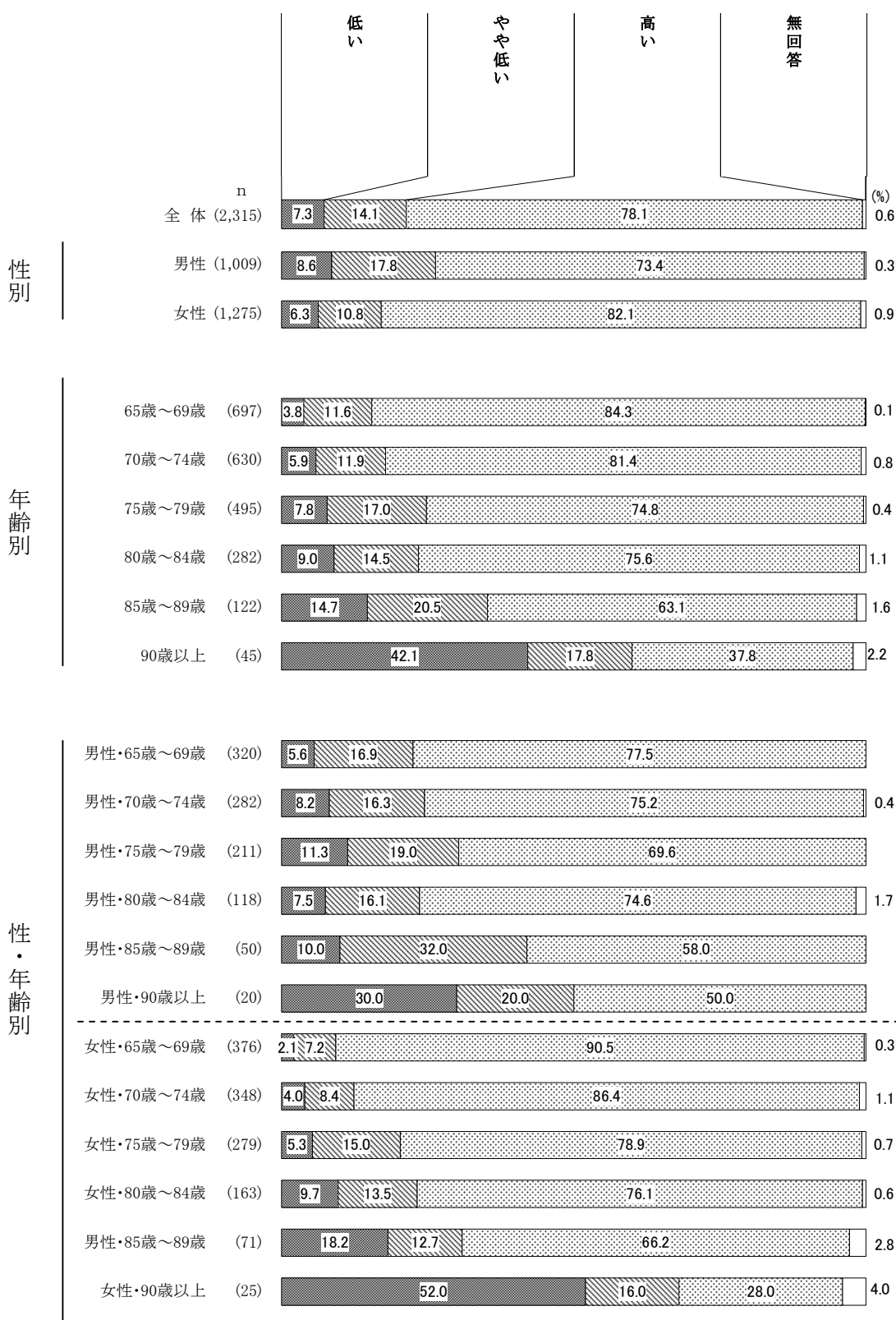
老研式活動能力指標の平均点は11.5点で、前回調査（11.8点）と大きな差は見られない。なお、全国平均11.3点（2012年）と同程度の点数となっている。

老研指標総合評価で、「低い」（7.3%）は1割未満、「やや低い」（14.0%）は1割台半ば近く、「高い」（78.1%）は8割近くとなっている。

性別でみると、「高い」は、女性のほうが8.7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「低い」は、年齢が上がるとともに、増加する傾向にある。

<図表 36> 老研式活動能力指標(性別/年齢別/性・年齢別)



② この2週間のあなたの心の状況について、あてはまるほうをお選びください。  
(それぞれ1つに○)

<こころの健康状況（5項目）>

ツ. 毎日の生活に充実感がない

テ. これまで楽しんでやれていたことが、楽しめなくなった

ト. 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる

ナ. 自分は役に立つ人間だと思えない

ニ. わけもなく疲れたような感じがする

こころの健康状況をたずねたところ、すべてに該当しない（0個）（39.4%）は4割弱となっている。

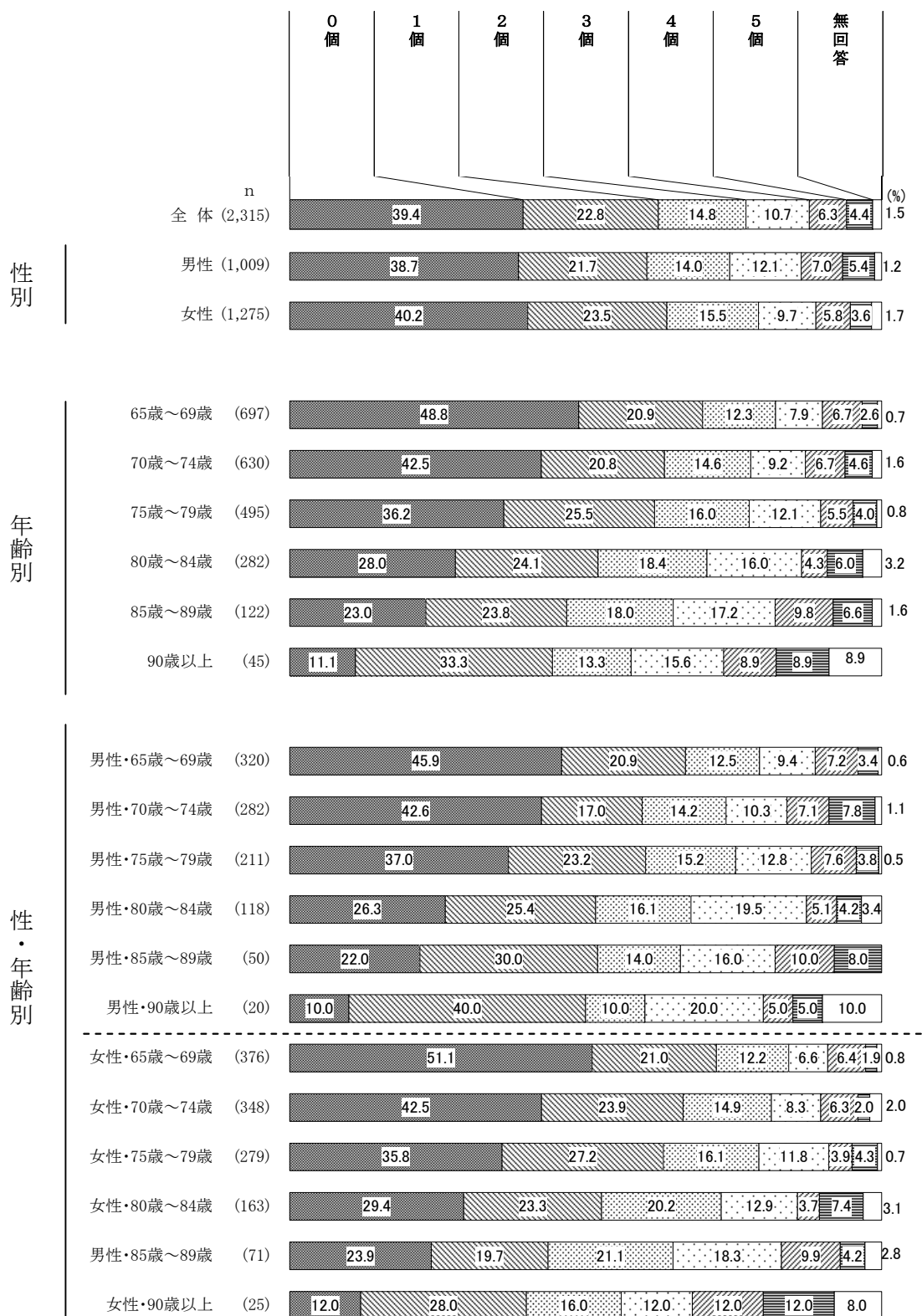
性別でみると、すべてに該当しない（0個）は、大きな差は見られない。

年齢でみると、すべてに該当しない（0個）は、年齢が上がるほど減少する傾向にある。

性・年齢別でみると、すべてに該当しない（0個）は、女性の65歳～69歳で5割以上と高くなっている。



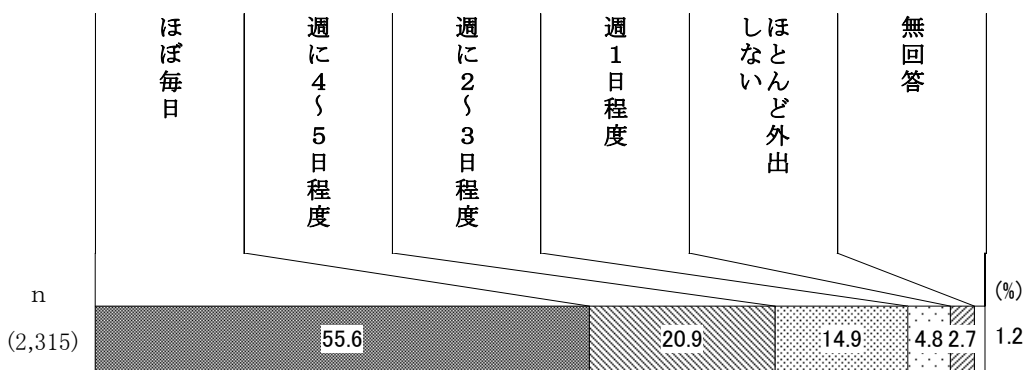
<図表 37> こころの健康状況(性別/年齢別/性・年齢別)



②外出頻度

問21 あなたは普段、どの程度、外出しますか。(1つに○)

<図表 38> 外出頻度

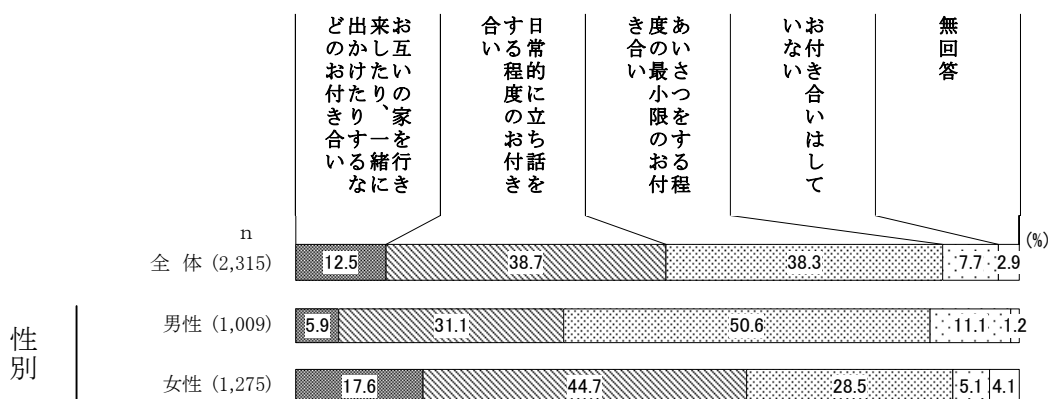


外出頻度をたずねたところ、「ほぼ毎日」(55.6%)が5割台半ばと最も高く、次いで、「週に4~5日程度」(20.9%)が約2割、「週に2~3日程度」(14.9%)が1割台半ば近くとなっている。

③ご近所付き合い

問22 あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。(1つに○)

<図表 39> ご近所付き合い(性別)



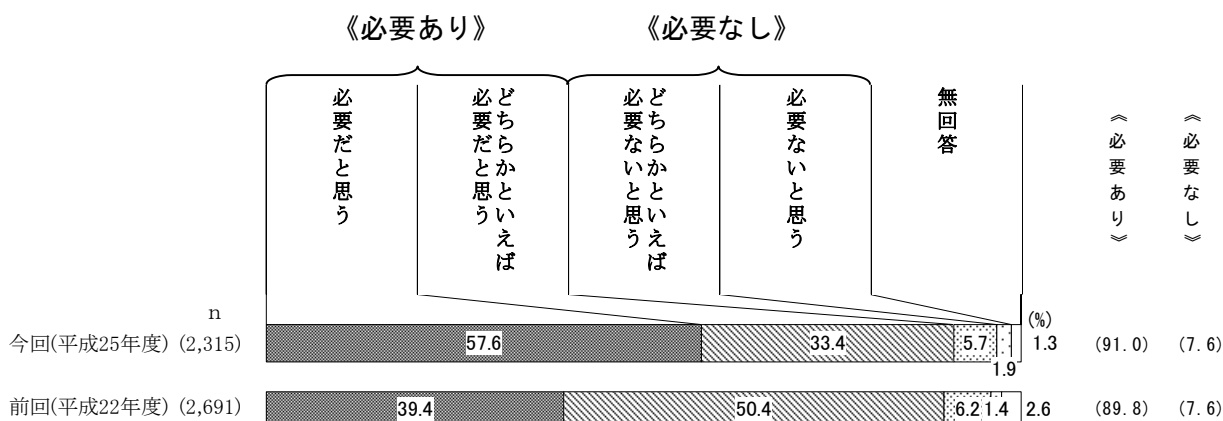
近所の方とのお付き合いの程度についてたずねたところ、「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」(38.7%)、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」(38.3%)がそれぞれ4割近くと高くなっている。

性別でみると、男性では「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」(50.6%)、女性では「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」(44.7%)がそれぞれ最も高くなっている。また、「お互いの家を行き来したり、一緒に出かけたりするなどのお付き合い」では11.7ポイント、「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」では13.6ポイント、女性が男性を上回っている。

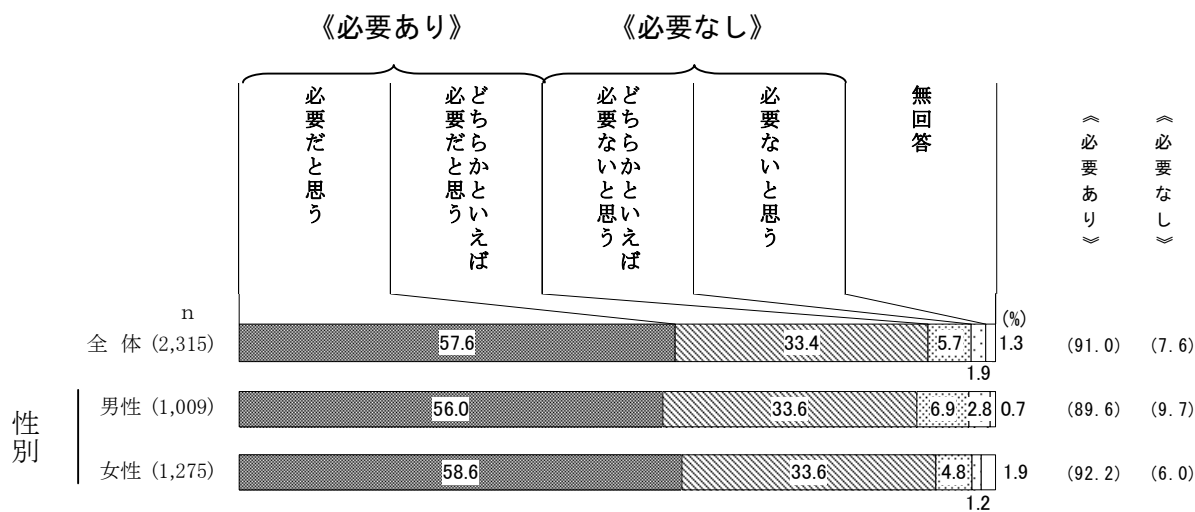
④地域のつながりの必要性

問23 あなたは、日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）は必要だと思いますか。（1つに○）

<図表 40> 地域のつながりの必要性（経年比較）



<図表 41> 地域のつながりの必要性（性別）



地域のつながりの必要性についてたずねたところ、「必要だと思う」（57.6％）と「どちらかといえは必要だと思う」（33.4％）をあわせた《必要あり》（91.0％）は9割強となっている。

経年比較でみると、「必要だと思う」は、前回調査に比べ、18.2ポイント高くなっている。

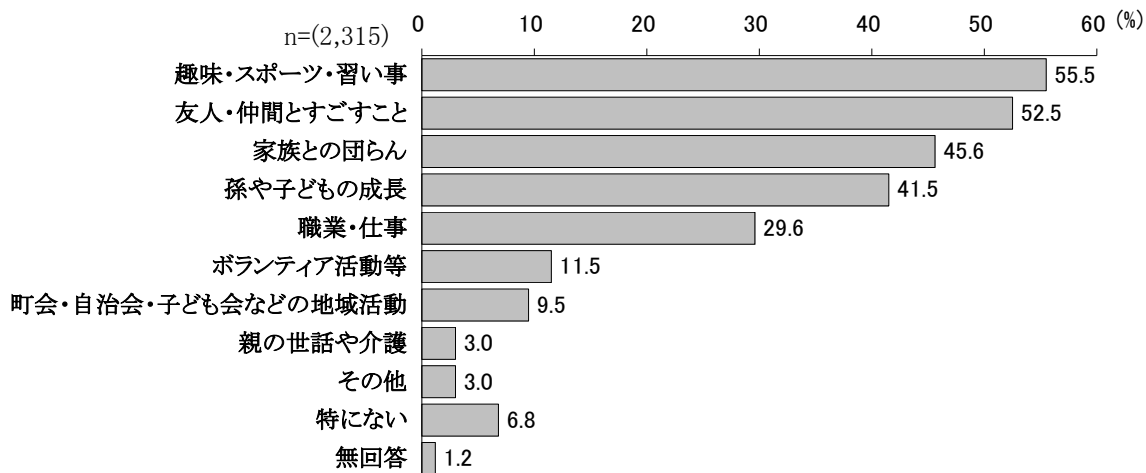
性別でみると、「必要だと思う」は、大きな差は見られない。

(5) いきがいづくりや社会参加について

① いきがいを感じることに

問24 あなたにとって、いきがいを感じるの、どのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表 42> いきがいを感じることに

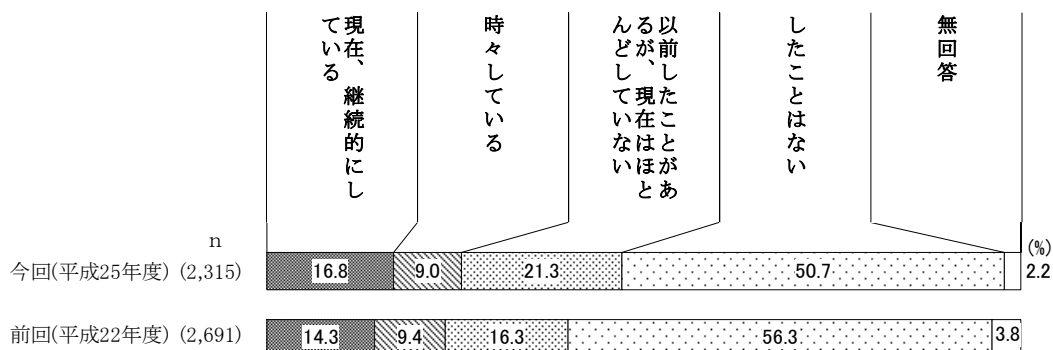


いきがいを感じることをたずねたところ、「趣味・スポーツ・習い事」(55.5%)及び「友人・仲間と過ごすこと」(52.5%)が5割以上となっている。次いで「家族との団らん」(45.6%)が続く。

② 地域活動・ボランティア活動の状況

問25 あなたは、現在、地域活動(町会、自治会、子ども会など、以下同様)やボランティア活動等を行っていますか。(1つに○)

<図表 43> 地域活動・ボランティア活動の状況(経年比較)



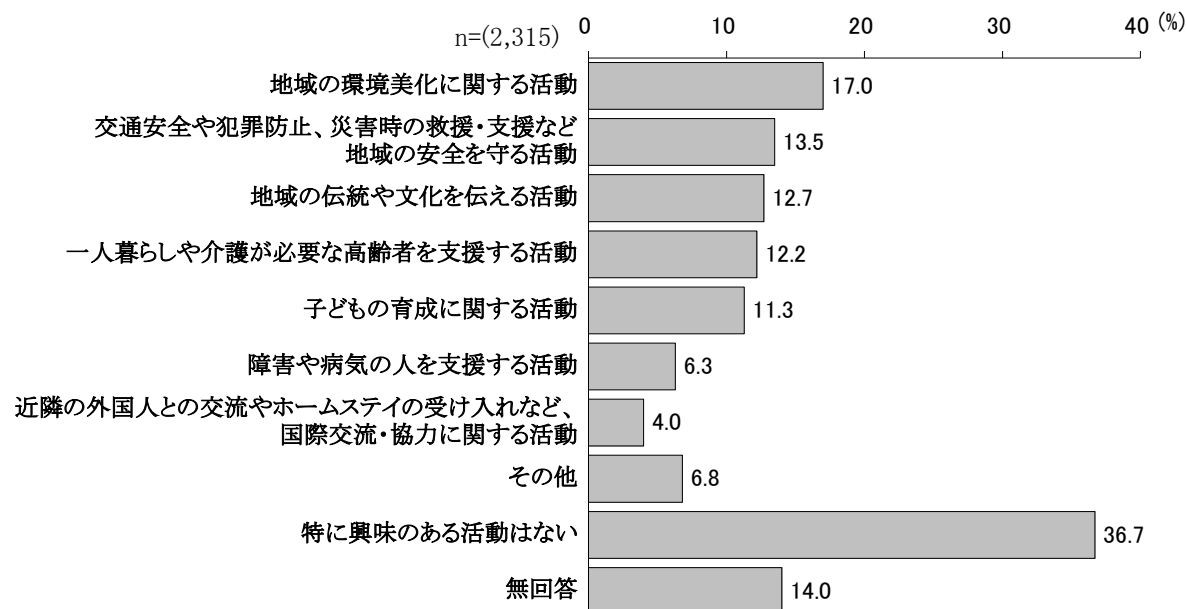
地域活動・ボランティア活動の状況をたずねたところ、「したことはない」(50.7%)が約5割と最も高く、次いで、「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」(21.3%)となっている。

経年比較でみると、前回調査に比べ、「したことはない」は5.6ポイント低くなっているが、「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」は、5.0ポイント高くなっている。

## ③興味のある地域活動・ボランティア活動

問26 あなたが興味のある地域活動やボランティア活動等（実際に取り組んでいるものも含む）は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

<図表 44> 興味のある地域活動・ボランティア活動

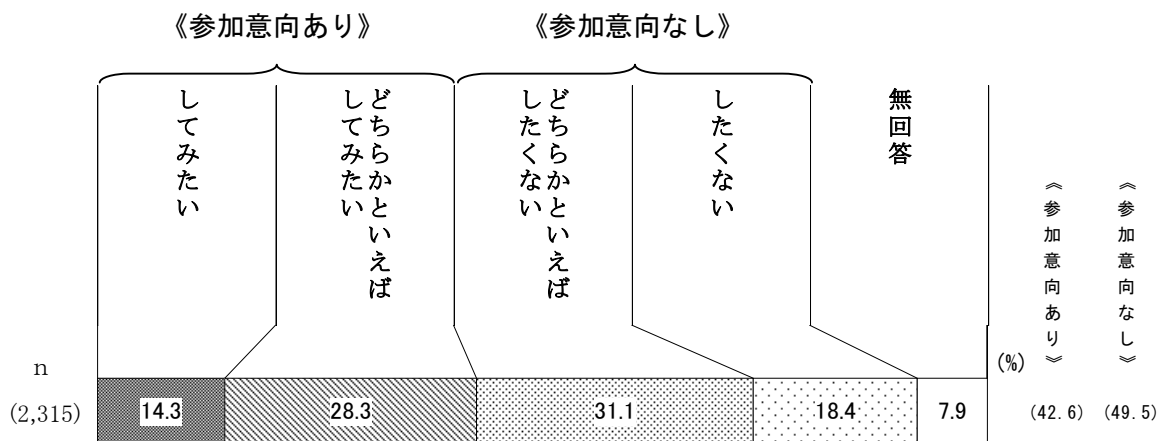


興味のある地域活動やボランティア活動等をたずねたところ、「地域の環境美化に関する活動」（17.0%）が1割台半ばを超え最も高く、次いで、「交通安全や犯罪防止、災害時の救援・支援など地域の安全を守る活動」（13.5%）が1割台半ば近く、「地域の伝統や文化を伝える活動」（12.7%）が1割強と続く。一方、「特に興味のある活動はない」（36.7%）となっている。

④今後の地域活動・ボランティア活動への参加意向

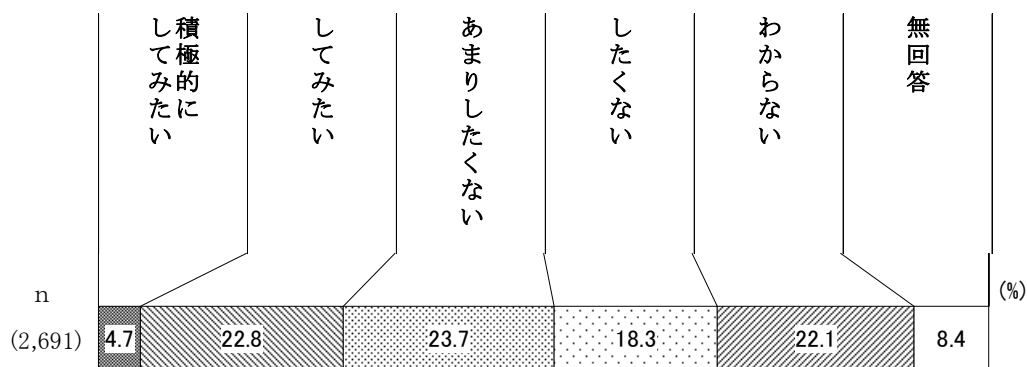
問27 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか。(1つに○)

<図表 45> 今後の地域活動・ボランティア活動への参加意向



今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向をたずねたところ、「してみたい」(14.3%)と「どちらかといえはしてみたい」(28.3%)をあわせた《参加意向あり》(42.6%)が4割強となっている。

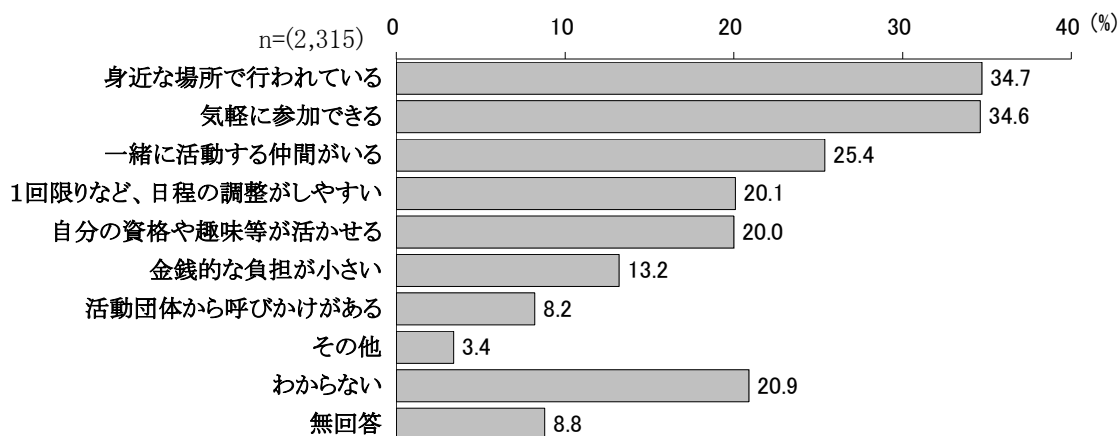
<図表 46> (参考) 今後の地域活動・ボランティア活動への参加意向：前回(平成22年度調査)



## ⑤地域活動・ボランティア活動に参加しやすくなる形

問28 あなたはどのような形であれば、地域活動やボランティア活動等に参加しやすいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 47> 地域活動・ボランティア活動に参加しやすくなる形



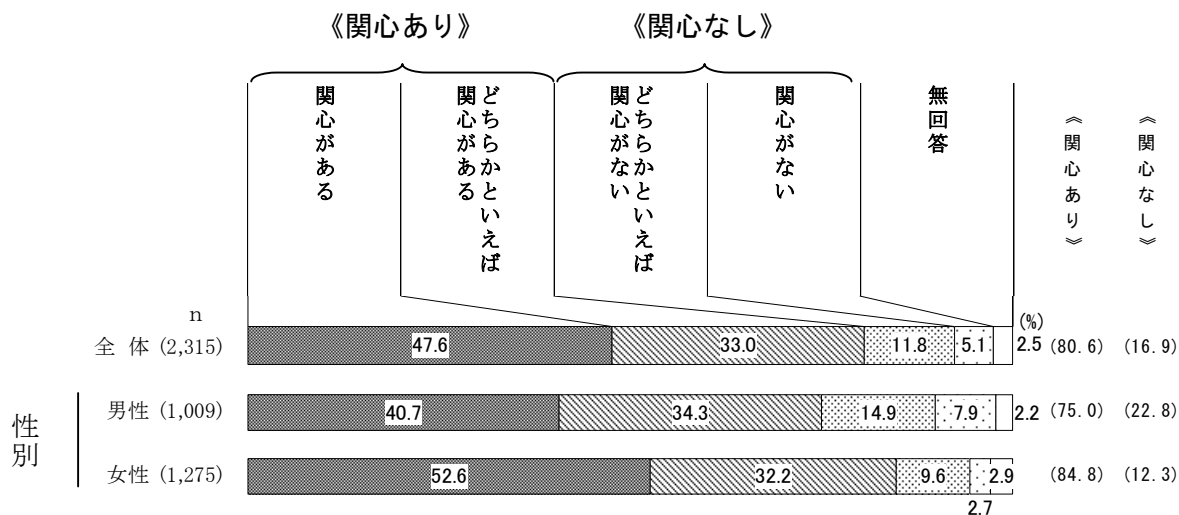
地域活動やボランティア活動等に参加しやすくなる形をたずねたところ、「身近な場所で行われている」(34.7%)及び「気軽に参加できる」(34.6%)がともに3割台半ば近くとなっている。

(6) 介護予防について

①介護予防についての関心の有無

問29 あなたは、「介護予防」について関心がありますか。(1つに○)

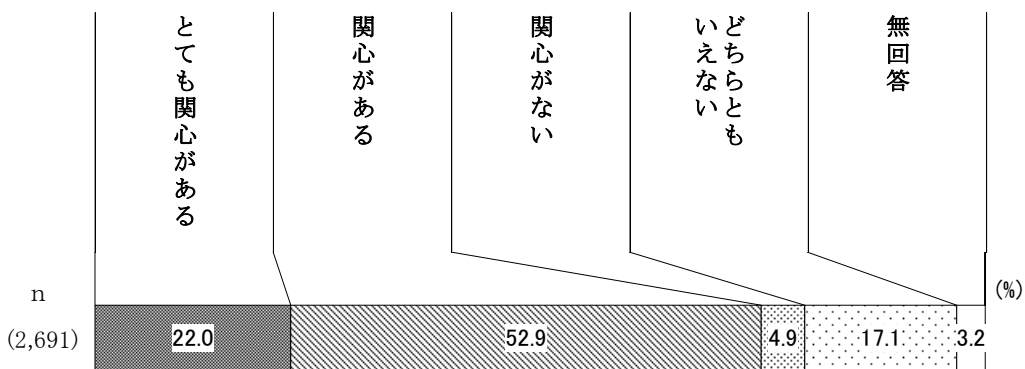
<図表 48> 介護予防についての関心の有無(性別)



「介護予防」への関心の有無をたずねたところ、「関心がある」(47.6%)と「どちらかといえば関心がある」(33.0%)をあわせた《関心あり》(80.6%)が約8割となっている。

性別でみると、《関心あり》は、女性のほうが9.8ポイント高くなっている。

<図表 49> (参考) 介護予防についての関心の有無：前回(平成22年度調査)

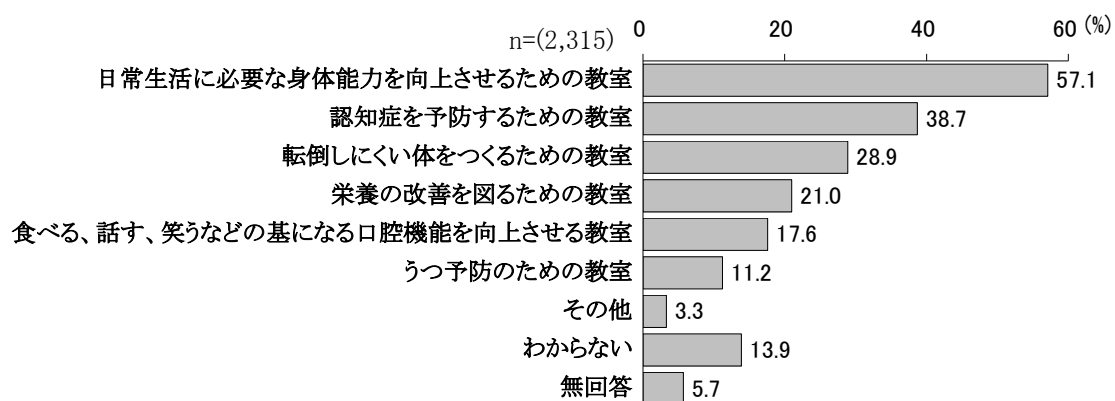




## ②希望する介護予防教室の内容

問30 あなたは、介護予防教室に通うとしたら、どのような内容を希望しますか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表 50> 希望する介護予防教室の内容



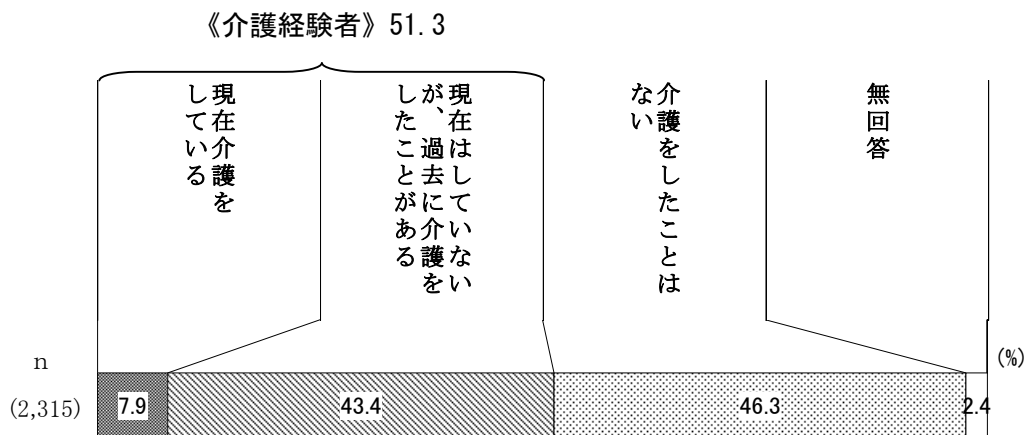
介護予防教室に希望する内容をたずねたところ、「日常生活に必要な身体能力を向上させるための教室」(57.1%)が5割台半ばを超え最も高く、次いで、「認知症を予防するための教室」(38.7%)が4割近く、「転倒しにくい体をつくるための教室」(28.9%)が3割近くとなっている。

(7) 介護や医療が必要になった時のことについて

① 家族等の高齢者の介護の経験

問31 あなたは、ご家族等の高齢者の介護をしたことがありますか。(1つに○)

<図表 51> 家族等の高齢者の介護の経験

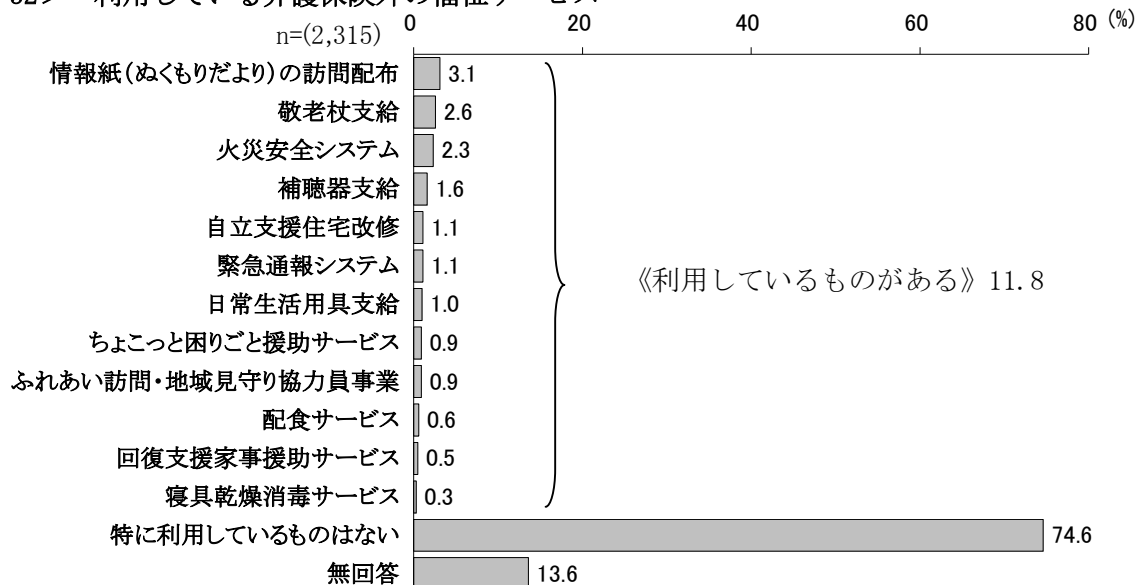


家族等の高齢者の介護経験をたずねたところ、「現在介護をしている」(7.9%)と「現在はないが、過去に介護をしたことがある」(43.4%)をあわせた《介護経験者》(51.3%)が5割強となっている。

② 利用している介護保険外の福祉サービス

問32 介護保険以外の以下の福祉サービスで、あなたが利用しているものは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 52> 利用している介護保険外の福祉サービス

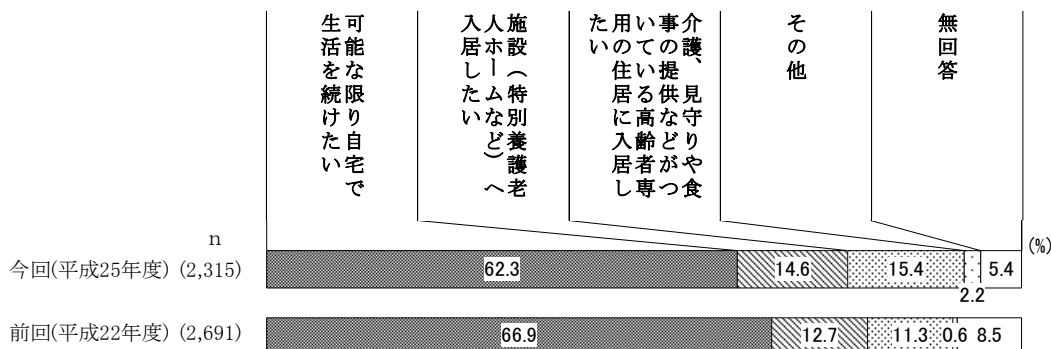


介護保険以外で利用している福祉サービスをたずねたところ、「特に利用しているものはない」(74.6%)が7割台半ば近くとなっている。

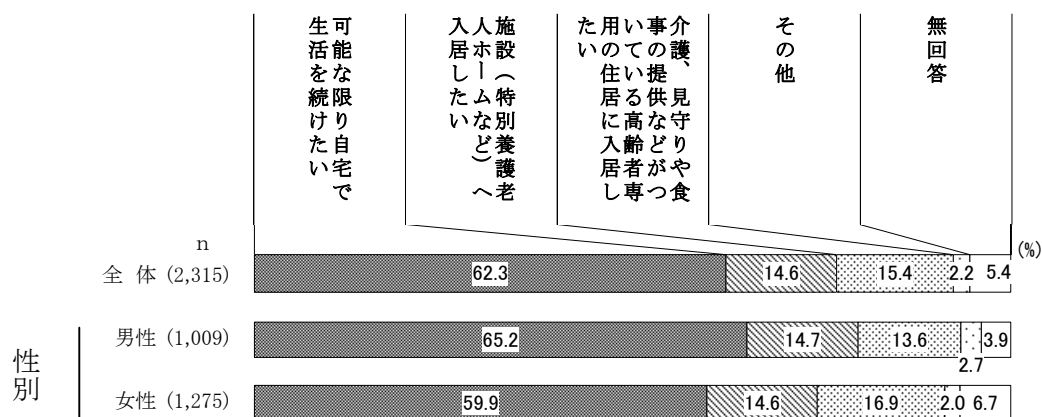
③介護が必要になった場合の生活場所

問33 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。  
(1つに○)

<図表 53> 介護が必要になった場合の生活場所（経年比較）



<図表 54> 介護が必要になった場合の生活場所（性別）



介護が必要になった場合の生活場所の希望をたずねたところ、「可能な限り自宅で生活を続けたい」(62.3%)が6割強と最も高くなっている。

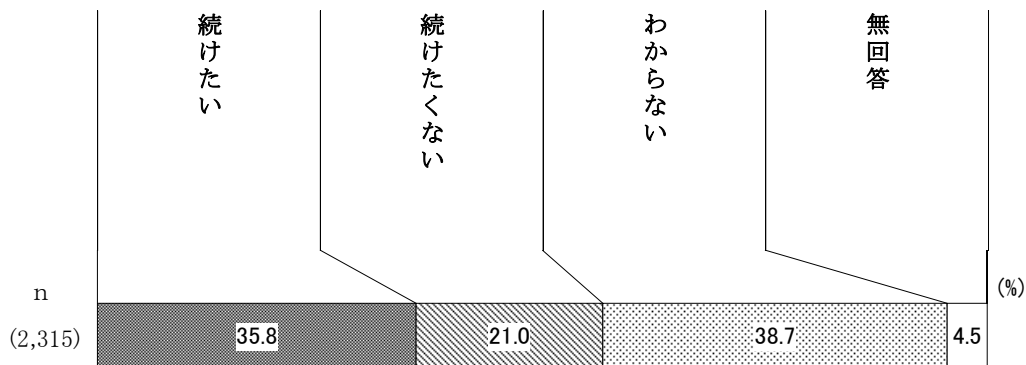
経年比較でみると、「可能な限り自宅で生活を続けたい」は、前回調査に比べ4.6ポイント低くなっている。

性別でみると、「可能な限り自宅で生活を続けたい」は、男性のほうが5.3ポイント高くなっている。

④在宅療養の意向

問34 「在宅療養」についておたずねします。長期の療養が必要になった場合、あなたは、自宅で療養を続けたいですか。(1つに○)

<図表 55> 在宅療養の意向

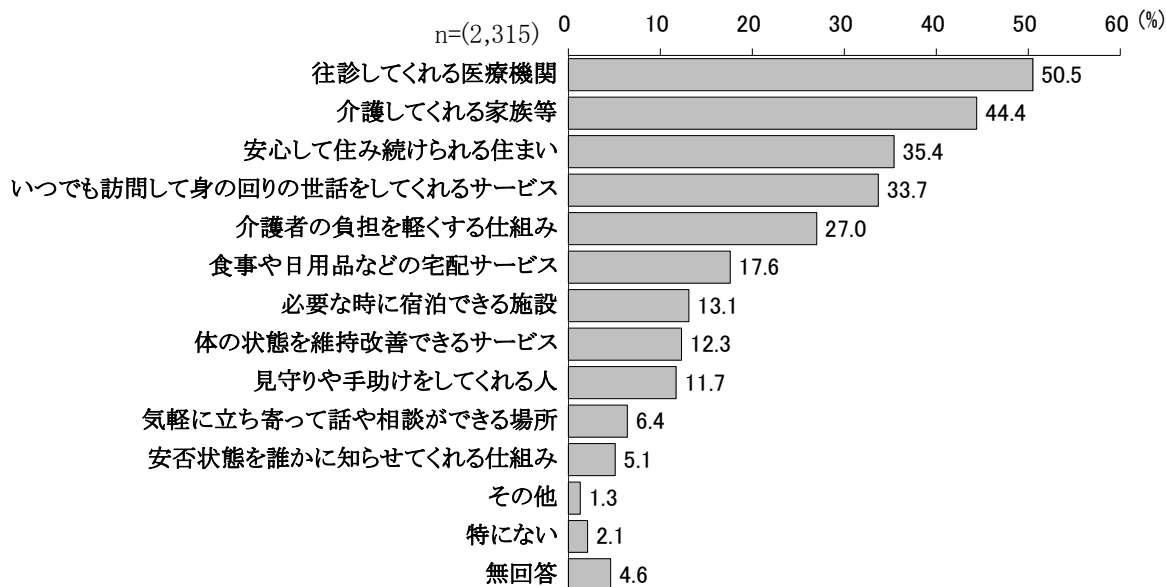


在宅療養の意向をたずねたところ、「続けたい」(35.8%)は3割台半ば、「続けたくない」(21.0%)は2割強となっている。

⑤在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの

問35 介護や医療が必要になっても、在宅で暮らし続けるために、あなたが特に重要だと思うものは何ですか。(あてはまるもの3つに○)

<図表 56> 在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの



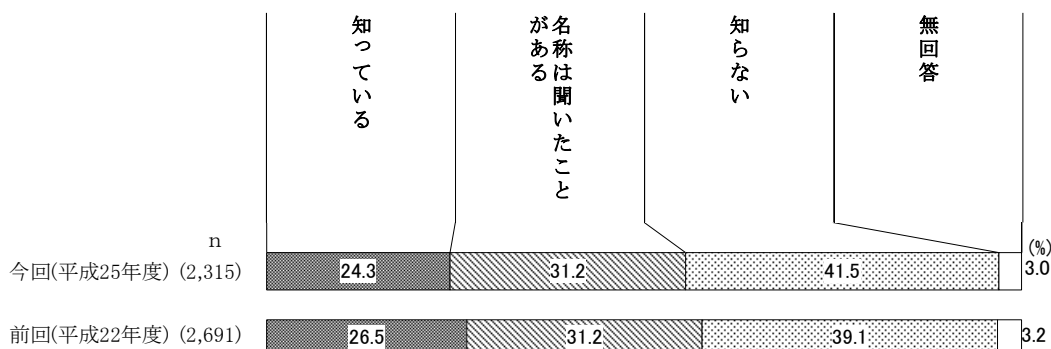
在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うものをたずねたところ、「往診してくれる医療機関」(50.5%)が約5割と最も高く、次いで、「介護してくれる家族等」(44.4%)が4割台半ば近く、「安心して住み続けられる住まい」(35.4%)が3割台半ばとなっている。

(8) 緩和医療・ケアについて

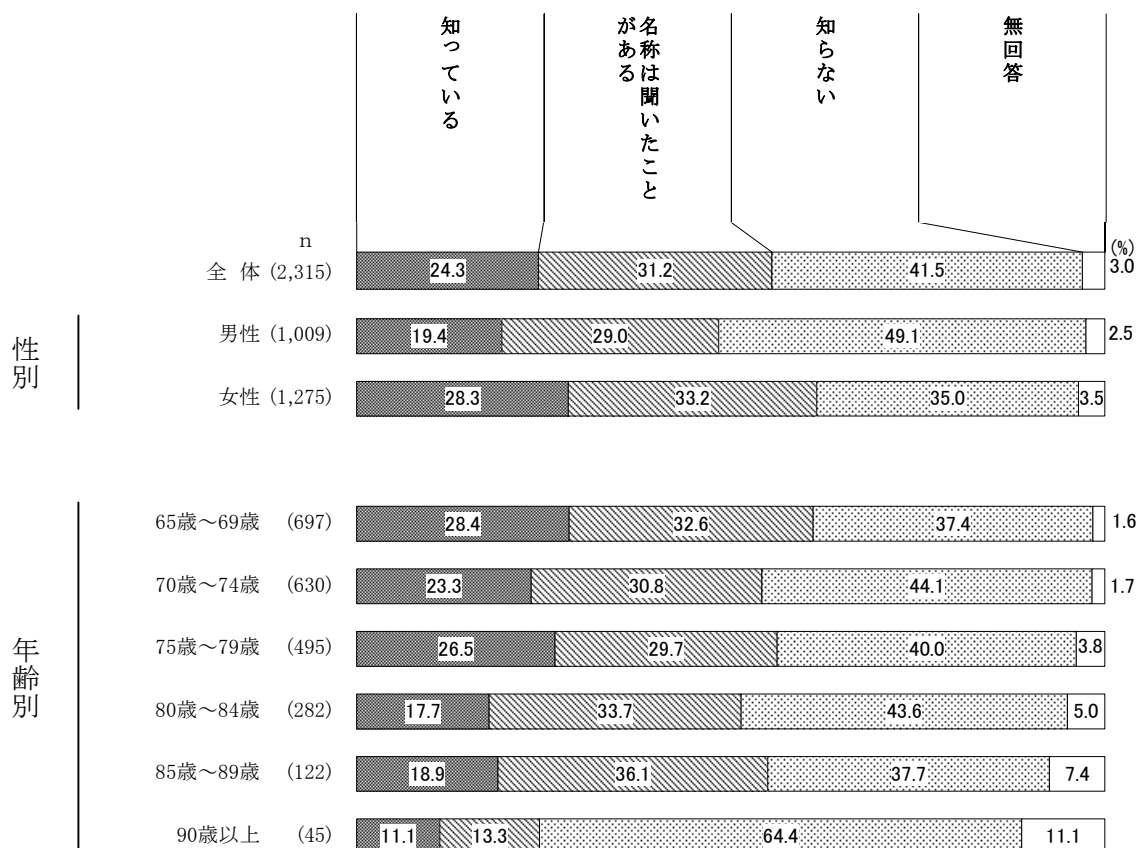
①がんの「緩和医療・ケア」の周知状況

問36 あなたは、がんの「緩和医療・ケア」について、ご存じですか。(1つに○)

<図表 57> がんの「緩和医療・ケア」の周知状況 (経年比較)



<図表 58> がんの「緩和医療・ケア」の周知状況 (性別/年齢別)



がんの「緩和医療・ケア」の認知度をたずねたところ、「知っている」(24.3%)は2割台半ば近く、「名称は聞いたことがある」(31.2%)は3割強となっている。

経年比較でみると、「知っている」は、前回調査と大きな差は見られない。

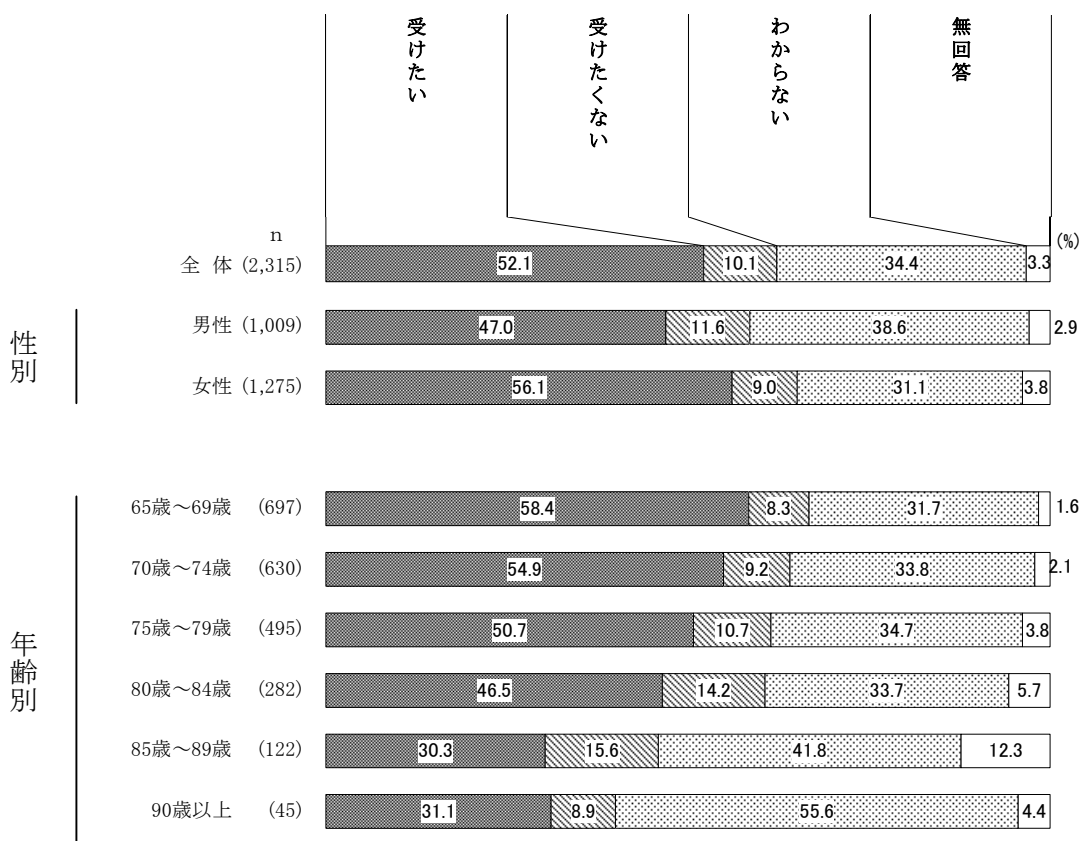
性別でみると、「知っている」は、女性のほうが8.9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「知っている」は、80歳以上になると1割台となる。

②がんの「緩和医療・ケア」の利用意向

問37 あなたは、がんで、病状の回復が期待できない場合、「緩和医療・ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表 59> がんの「緩和医療・ケア」の利用意向(性別/年齢別)



がんの「緩和医療・ケア」の利用意向をたずねたところ、「受けたい」(52.1%)は5割強となっている。

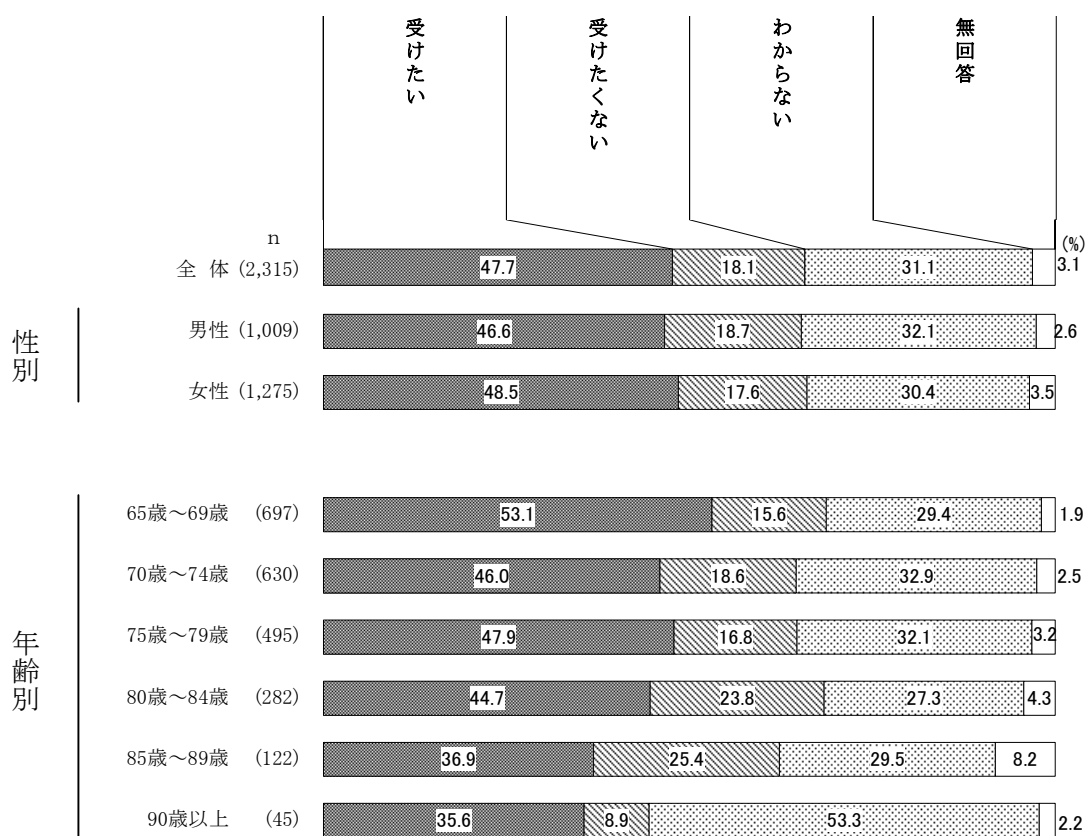
性別でみると、「受けたい」は、女性のほうが9.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「受けたい」は、年齢が上がるほど、減少する傾向にあり、85歳以上で3割台となる。

③がん以外の病気での症状緩和を主とした医療・ケアの利用意向

問38 あなたは、さらに高齢になり、がん以外の病気で、病状の回復が期待できない場合、症状の緩和を主とした医療・ケアを受けたいですか。(1つに○)

<図表 60> がん以外の病気での症状緩和を主とした医療・ケアの利用意向(性別/年齢別)



がん以外の病気での症状緩和を主とした医療・ケアの利用意向をたずねたところ、「受けたい」(47.7%)は4割台半ばを超える。

性別で見ると、「受けたい」は、大きな差は見られない。

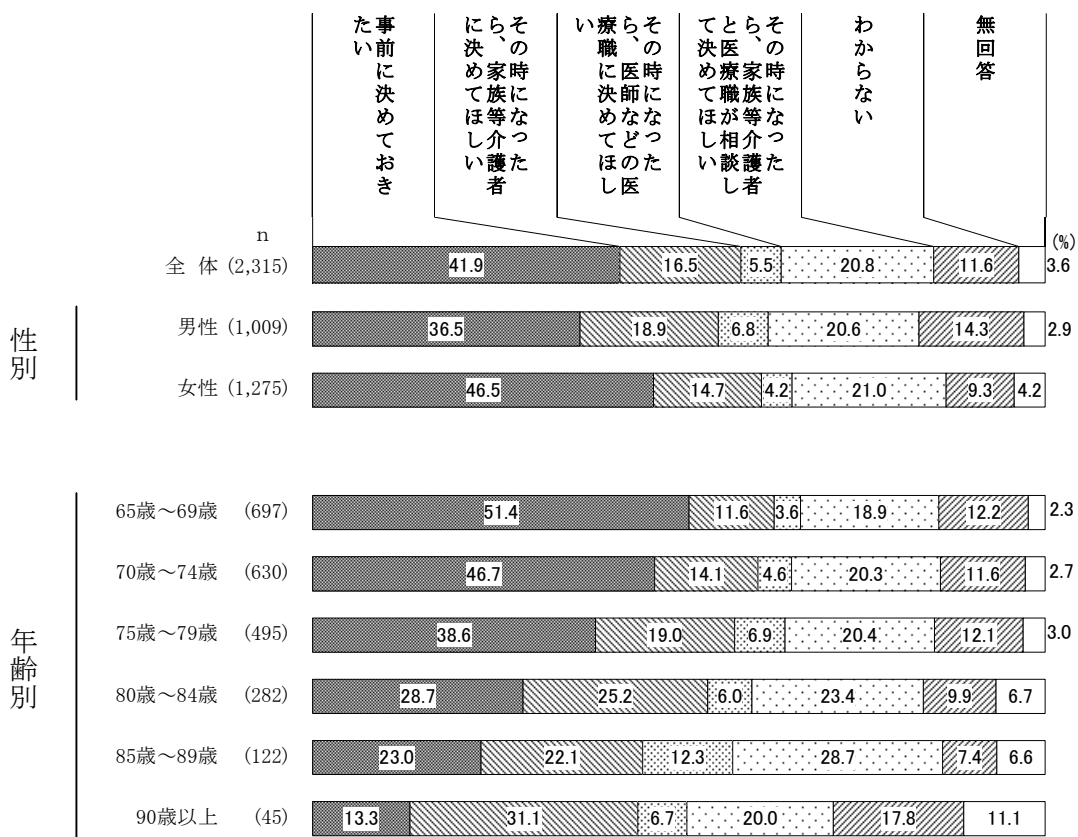
年齢別で見ると、「受けたい」は、年齢が上がるほど、減少する傾向にあり、85歳以上で3割台となる。また、割合の最も高い65歳～69歳(53.1%)と最も低い90歳以上(35.6%)との差異は、17.5ポイントとなっている。

(9) 看取りについて

①自身で判断できなくなったときの医療・介護

問39 あなたは、ご自身で判断できなくなったときの医療や介護を、どのようにしたいですか。(1つに○)

<図表 61> 自身で判断できなくなったときの医療・介護(性別/年齢別)



自身で判断できなくなったときの医療や介護についてたずねたところ、「事前決めておきたい」(41.9%)が4割強と最も高く、次いで、「その時になったら、家族等介護者と医療職が相談して決めてほしい」(20.8%)が約2割となっている。

性別でみると、「事前決めておきたい」は、女性のほうが10.0ポイント高くなっている。

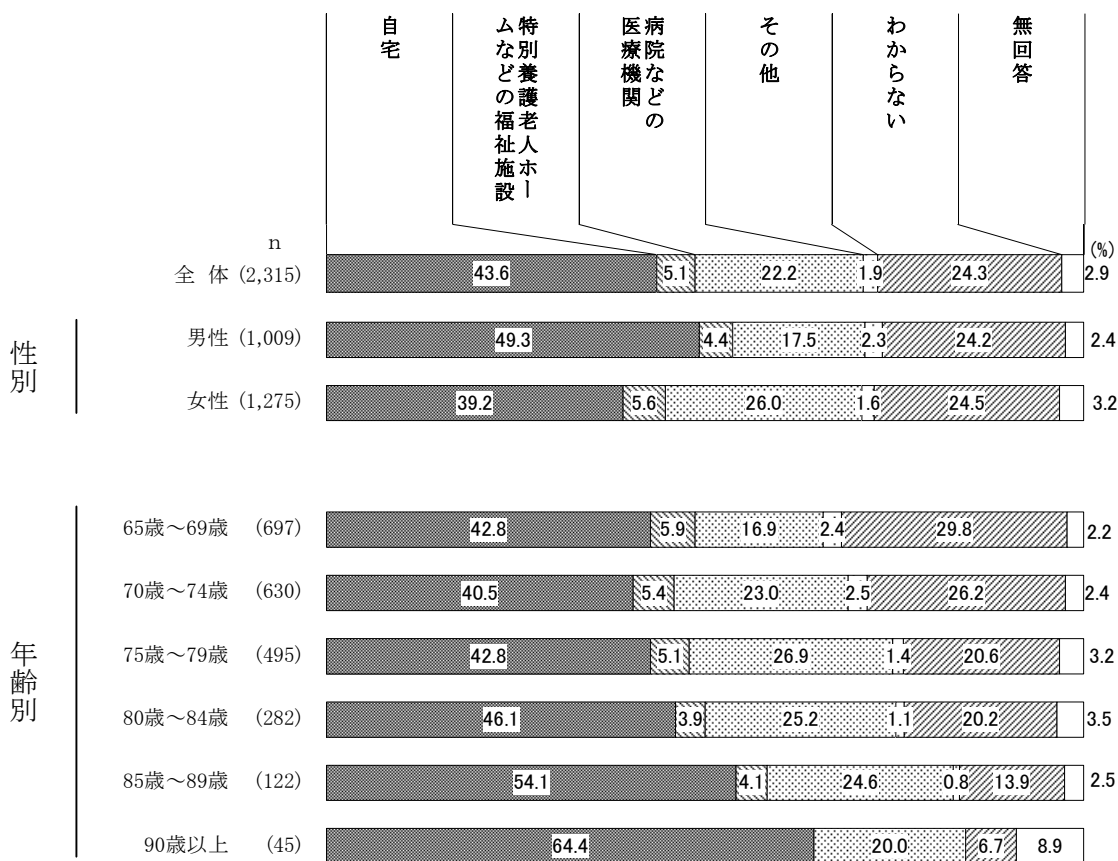
年齢別でみると、「事前決めておきたい」は、年齢が上がるほど、減少する傾向にあり、80歳以上になると2割台となる。



②最期を迎えたい場所

問40 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

<図表 62> 最期を迎えたい場所(性別/年齢別)



最期を迎えたい場所についてたずねたところ、「自宅」(43.6%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「病院などの医療機関」(22.2%)が2割強となっている。

性別で見ると、「自宅」は、男性のほうが10.1ポイント高くなっている。

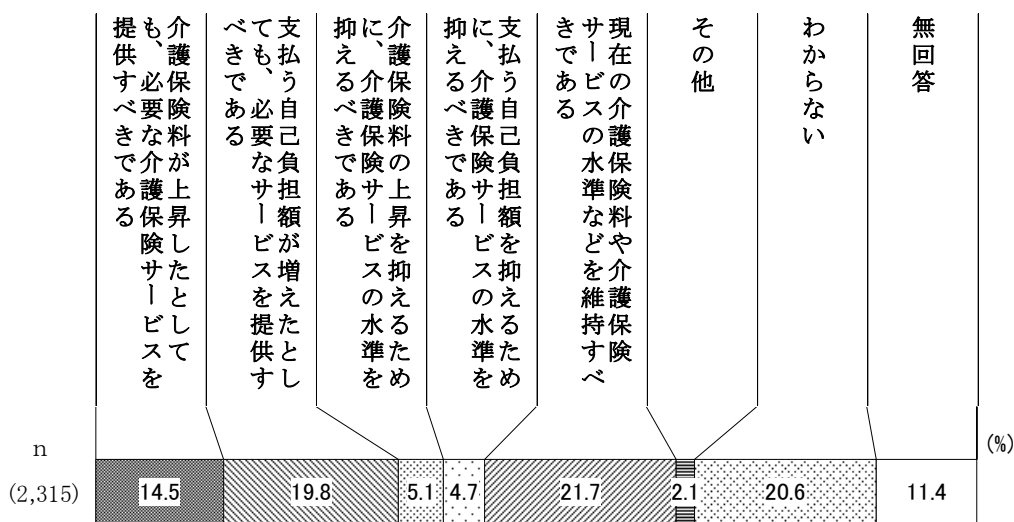
年齢別で見ると、「自宅」は、年齢が上がるほど、増加する傾向にある。

(10) 介護保険制度について

①介護保険のサービスと保険料についての考え

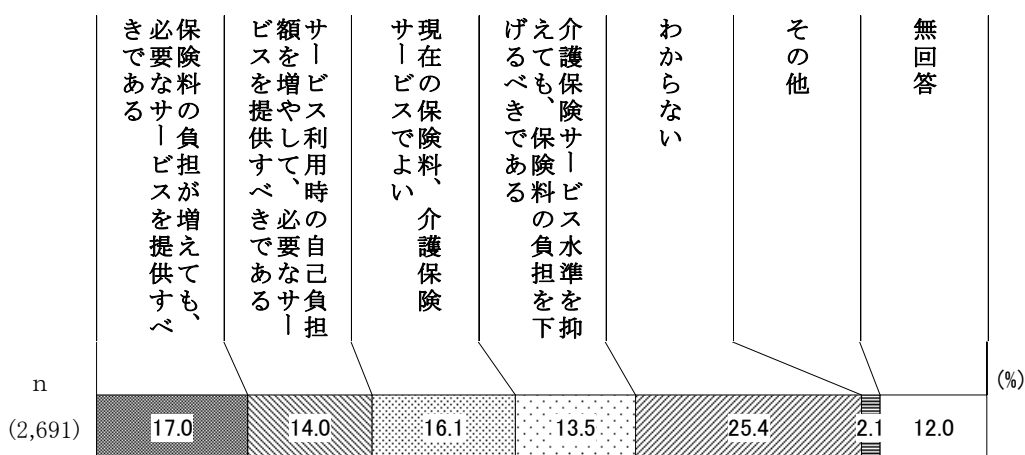
問41 介護保険のサービスと保険料について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表 63> 介護保険のサービスと保険料についての考え

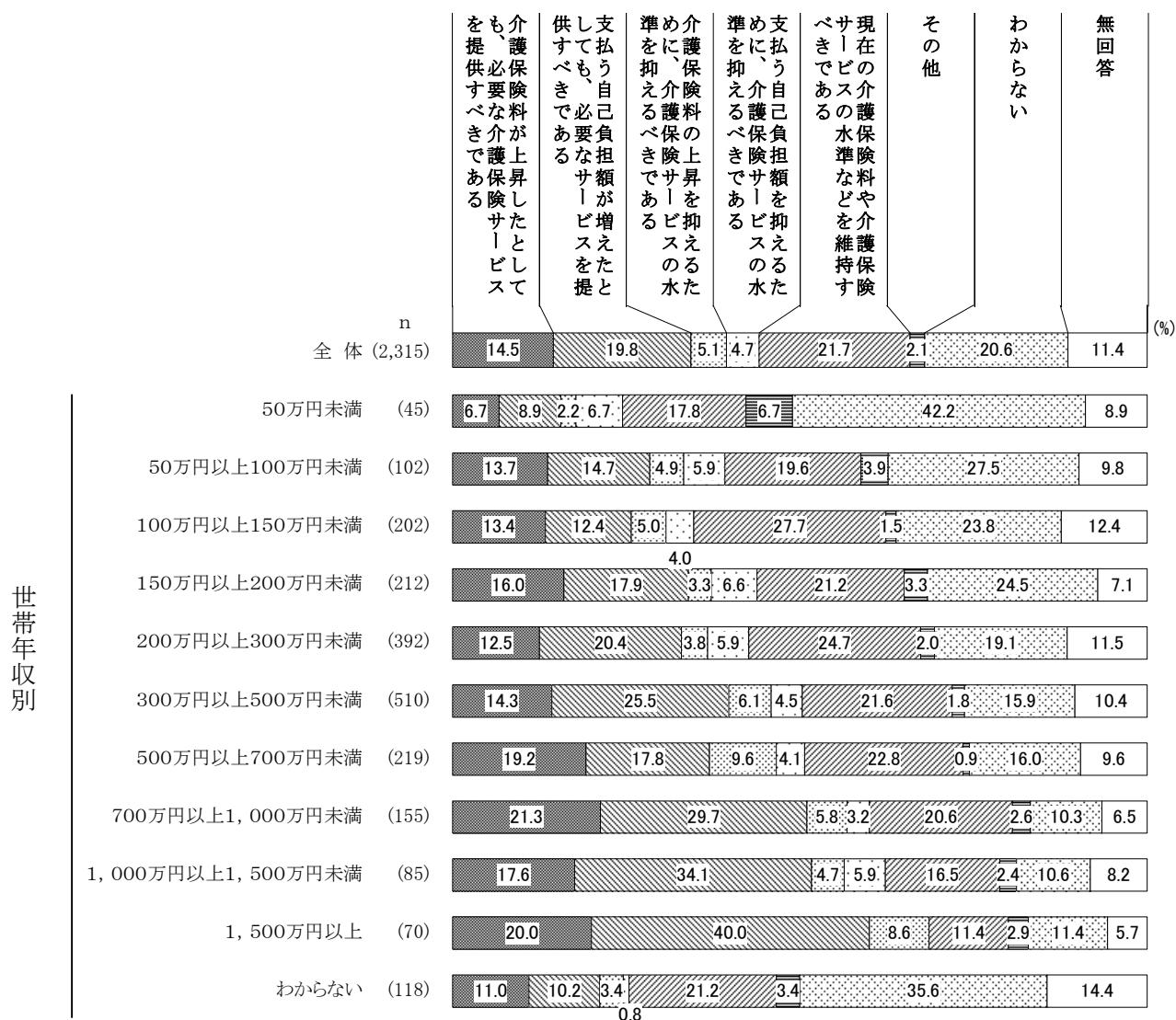


介護保険のサービスと保険料についての考えをたずねたところ、「現在の介護保険料や介護サービスの水準などを維持すべきである」(21.7%)と「支払う自己負担額が増えたとしても、必要なサービスを提供すべきである」(19.8%)が2割前後となっている。

<図表 64> (参考) 介護保険のサービスと保険料についての考え：前回 (平成22年度調査)



<図表 65> 介護保険のサービスと保険料についての考え(世帯年収別)



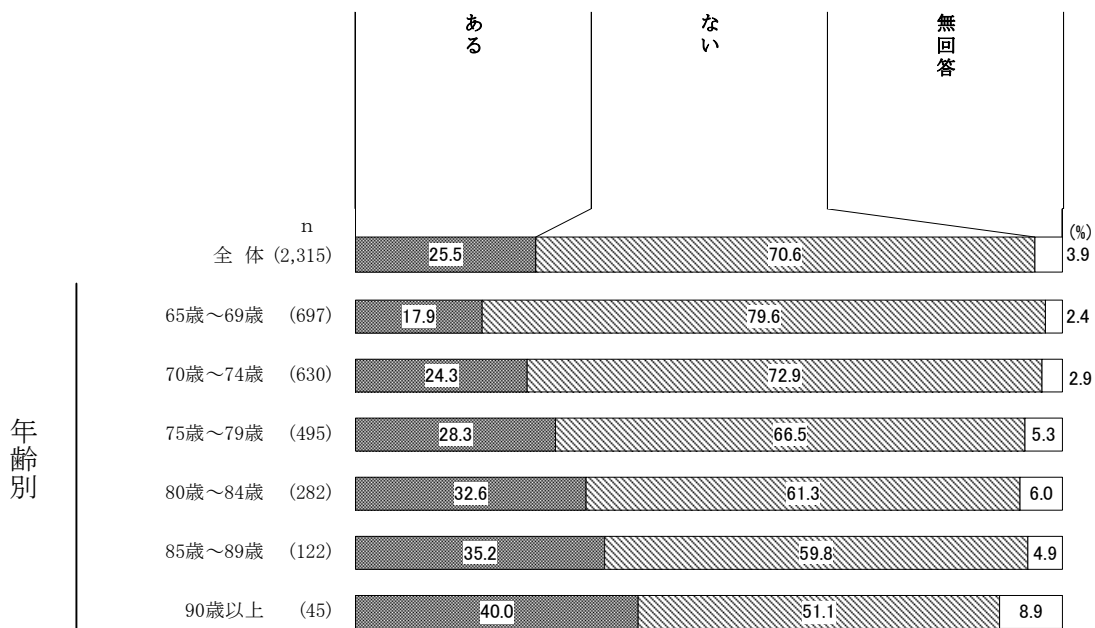
世帯年収別でみると、「支払う自己負担額が増えたとしても、必要なサービスを提供すべきである」は、「1,000万円以上1,500万円以下」(34.1%)と「1,500万円以上」(40.0%)で高くなっている。

(11) 認知症について

①この1年間の物忘れ、理解・判断力の低下の状況

問42 あなたは、この1年間に何度も、物忘れに加えて、理解・判断力の低下などを感じる  
ことがありますか。(1つに○)

<図表 66> この1年間の物忘れ、理解・判断力の低下の状況(年齢別)



この1年間に何度も、物忘れに加えて、理解・判断力の低下を感じるかどうかについてたずねたところ、「ある」(25.5%)は2割台半ばで、約4人に1人の割合となっている。

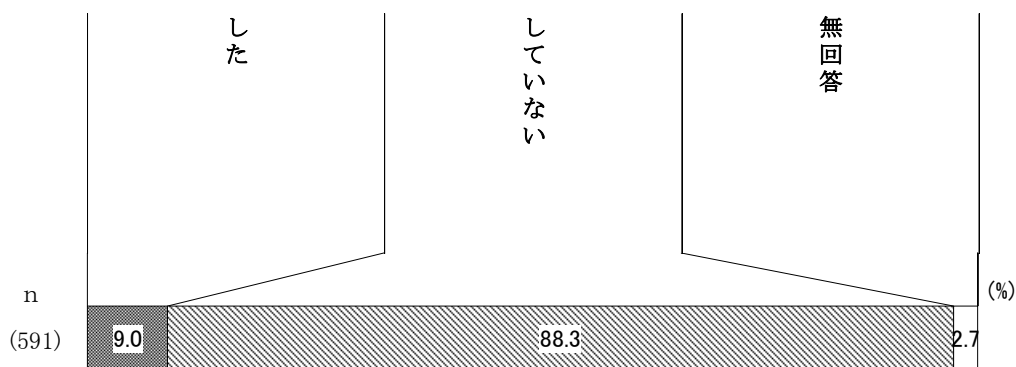
年齢別でみると、「ある」は、年齢が上がるほど、増加する傾向にある。

②物忘れや理解・判断力の低下についての相談の有無

問42-1 <<問42で「1 ある」と回答した方のみお答えください>>

物忘れや理解・判断力の低下などについてどこかへ相談しましたか。(1つに○)

<図表 67> 物忘れや理解・判断力の低下についての相談の有無



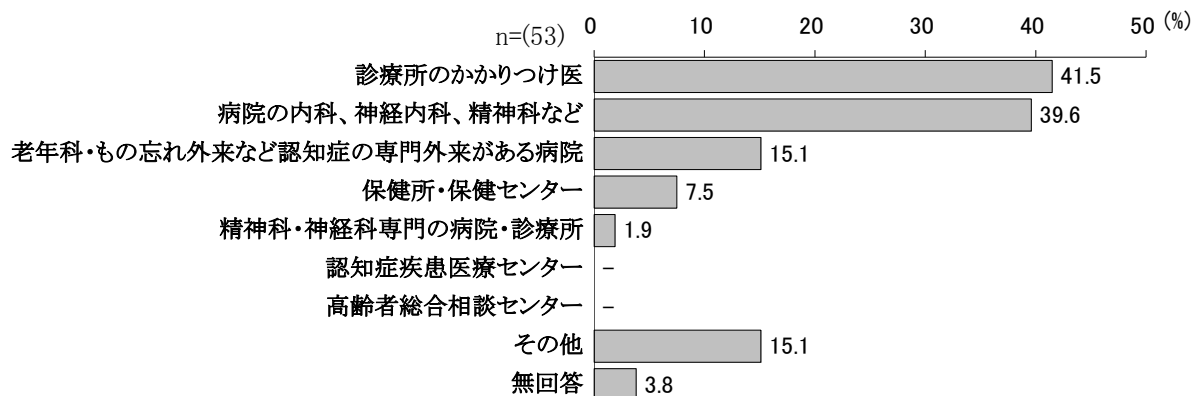
問42で1年間に何度も、物忘れに加えて、理解・判断力の低下を感じるものが「ある」と回答した人に相談したかどうかをたずねたところ、「した」(9.0%)が1割弱と低くなっている。

③物忘れや理解・判断力の低下についての相談先

問42-1-1 <<問42-1で「1 した」と回答した方のみお答えください>>

どちらに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 68> 物忘れや理解・判断力の低下についての相談先

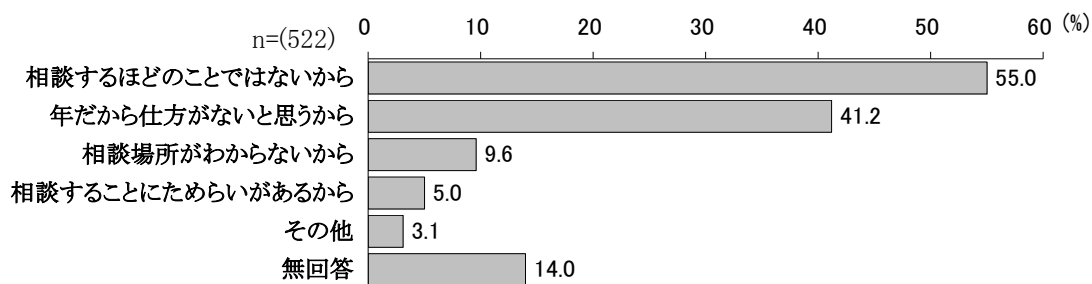


問42-1で相談を「した」と回答した人に相談先をたずねたところ、「診療所のかかりつけ医」(41.5%)が4割強と最も高く、次いで、「病院の内科、神経内科、精神科など」(39.6%)が4割弱となっている。

④相談していない理由

問42-1-2 <<問42-1で「2 していない」と回答した方のみお答えください>>  
 相談していない理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 69> 相談していない理由

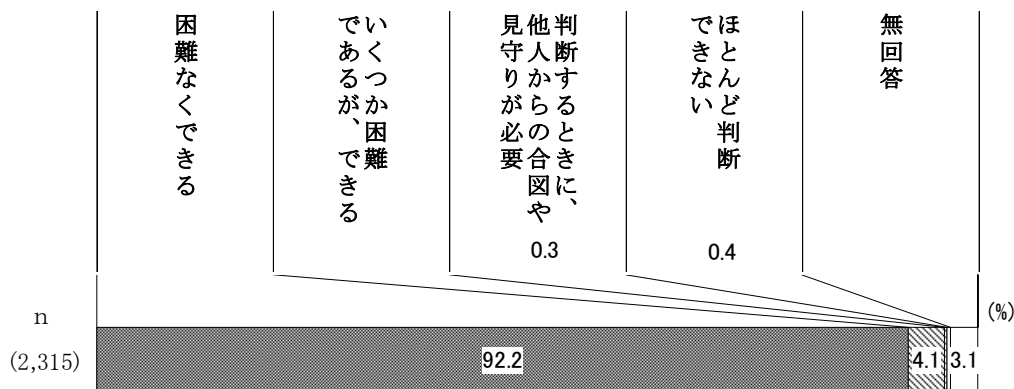


問42-1で相談を「していない」と回答した人に相談していない理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないから」(55.0%)が5割台半ばと最も高く、次いで、「年だから仕方がないと思うから」(41.2%)が4割強となっている。

⑤その日の活動の判断状況

問43 あなたは、その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。  
 (1つに○)

<図表 70> その日の活動の判断状況

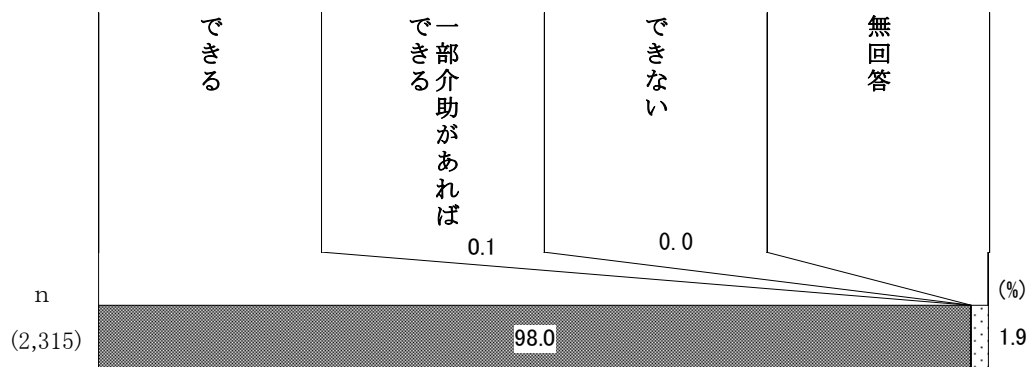


その日の活動の判断状況をたずねたところ、「困難なくできる」(92.2%)が9割強となっている。

⑥食事の状況

問44 あなたは、食事を自分で食べられますか。(1つに○)

<図表 71> 食事の状況

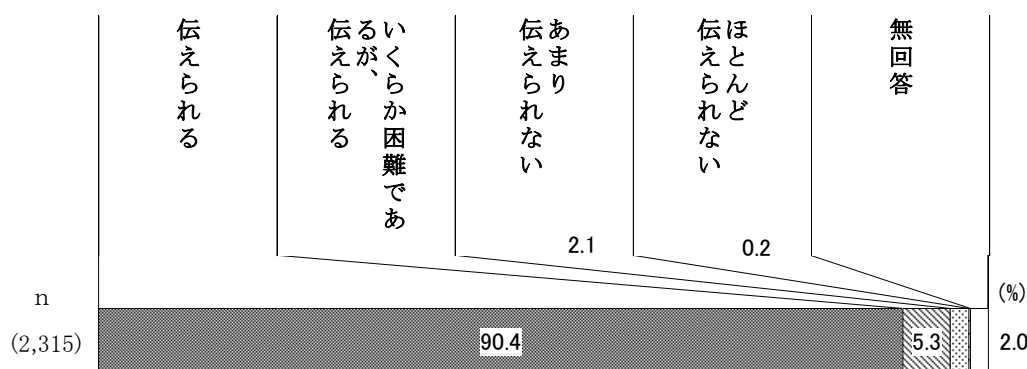


食事の状況をたずねたところ、自分で食べることが「できる」(98.0%)が10割近くとなっている。

⑦意思の伝達

問45 あなたは、人に自分の考えをうまく伝えられますか。(1つに○)

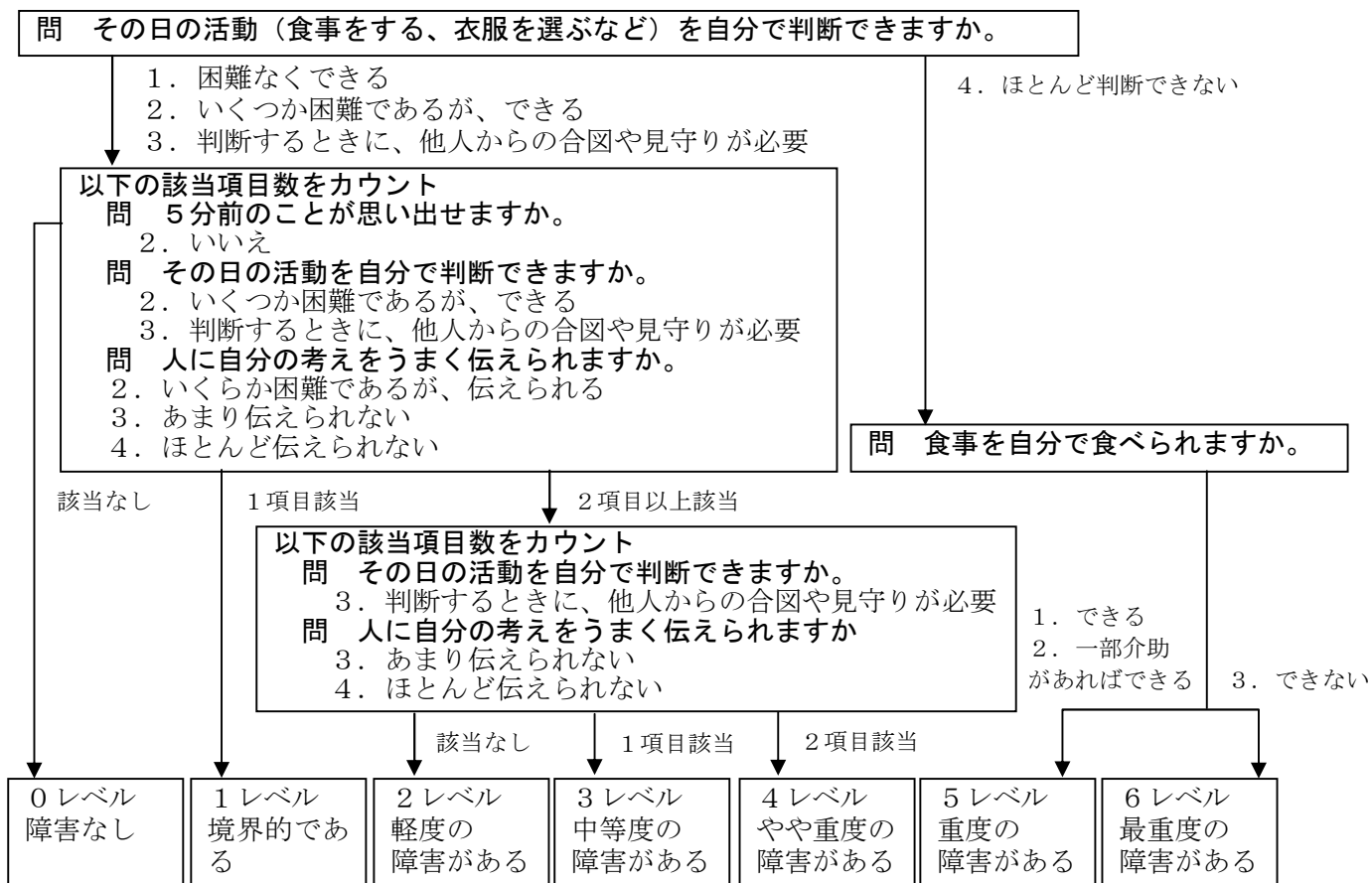
<図表 72> 意思の伝達



意思の伝達についてたずねたところ、「伝えられる」(90.4%)が約9割となっている。

⑧認知機能障害程度（GPS）

問20（チ）及び問43～問45の判断能力、意思伝達の状況等を用いて、認知機能のリスク該当者割合の算出を試みた。



<図表 73> 認知機能のリスク該当者割合（年齢別）

(%)

	調査数	0レベル	リスク該当者割合	1レベル	2レベル	3レベル	4レベル	5レベル	6レベル	無回答
全体	2,315	81.9	13.8	10.7	1.8	1.0	0.0	0.3	0.0	4.1
年齢別	65歳～69歳	697	87.7	9.8	8.2	0.9	0.4	-	0.3	2.6
	70歳～74歳	630	85.1	11.2	8.6	1.3	1.0	-	0.3	3.8
	75歳～79歳	495	77.2	18.1	13.9	2.6	1.2	-	0.4	4.6
	80歳～84歳	282	78.4	16.0	12.8	1.1	1.4	-	0.7	5.7
	85歳～89歳	122	70.5	23.7	16.4	5.7	0.8	-	0.8	5.7
	90歳以上	45	64.4	28.9	8.9	8.9	8.9	2.2	-	-

レベル1以上のリスク該当者割合（13.8%）は1割台半ば近くとなっており、年齢が上がるほど、その割合は増加する傾向にある。

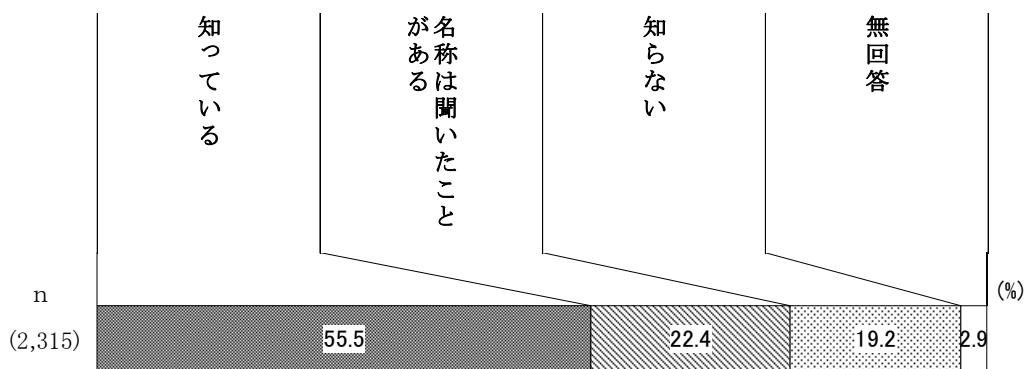


(12) 権利擁護について

①成年後見制度の周知状況

問46 あなたは、認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る、「成年後見制度」をご存じですか。(1つに○)

<図表 74> 成年後見制度の周知状況

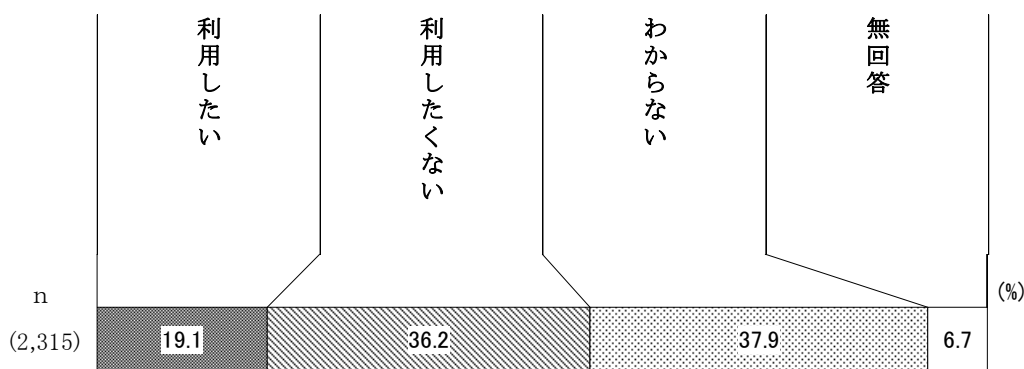


成年後見制度の認知度をたずねたところ、「知っている」(55.5%)は5割台半ば、「名称は聞いたことがある」(22.4%)は2割強となっている。

②成年後見制度の利用意向

問47 あなたは、判断能力が十分でなくなってきた場合に、「成年後見制度」を利用したいですか。(1つに○)

<図表 75> 成年後見制度の利用意向

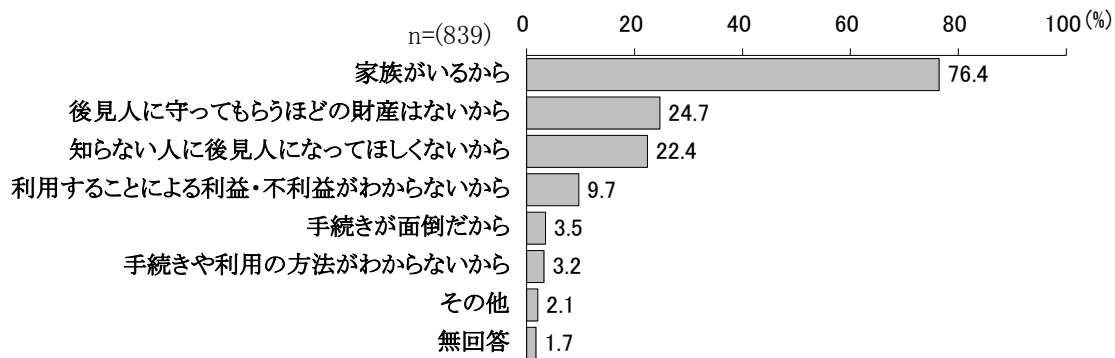


成年後見制度の利用意向をたずねたところ、「利用したい」(19.1%)は2割弱、「利用したくない」(36.2%)が3割台半ばを超える。

③成年後見制度を利用したくない理由

問47-1 《問47で「2 利用したくない」と回答した方のみお答えください》  
 利用したくない理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 76> 成年後見制度を利用したくない理由

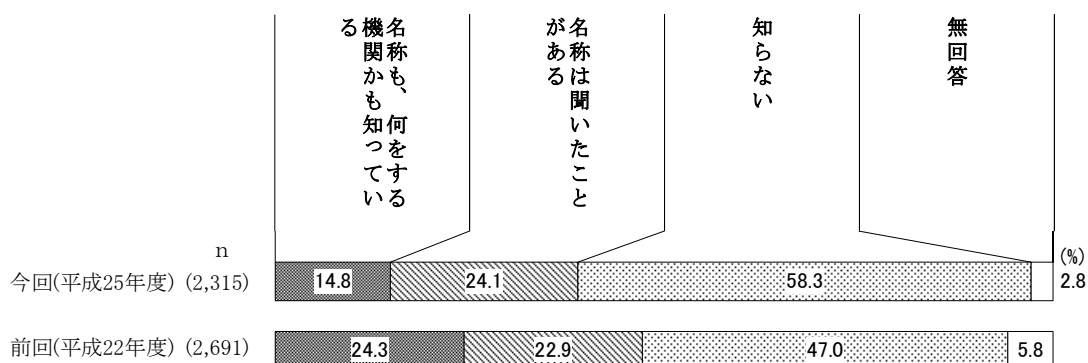


問47で成年後見制度を「利用したくない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「家族がいるから」(76.4%)が7割台半ばを超え最も高く、次いで、「後見人に守ってもらうほどの財産はないから」(24.7%)が2割台半ば近く、「知らない人に後見人になってほしくないから」(22.4%)が2割強となっている。

④新宿区成年後見センターの周知状況

問48 あなたは、「新宿区成年後見センター」をご存じですか。(1つに○)

<図表 77> 新宿区成年後見センターの周知状況 (経年比較)



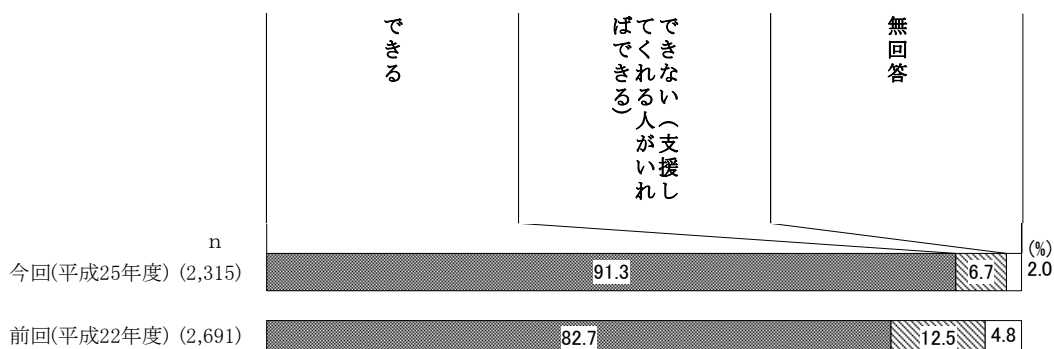
新宿区成年後見センターの認知度をたずねたところ、「名称も、何をする機関かも知っている」(14.8%)は1割台半ば近く、「名称は聞いたことがある」(24.1%)は2割台半ば近くとなっている。経年比較でみると、「名称も、何をする機関かも知っている」は、前回調査に比べ、9.5ポイント低くなっている。

(13) 緊急時の避難などについて

① 緊急時の避難状況

問49 あなたは、災害時や火災など緊急時に、一人で避難できますか。(1つに○)

<図表 78> 緊急時の避難状況 (経年比較)

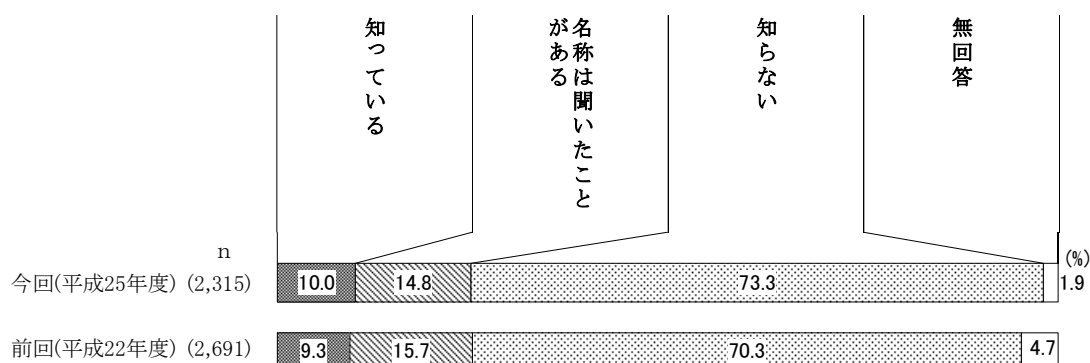


緊急時に一人で避難できるかどうかをたずねたところ、「できる」(91.3%)は9割強となっている。経年比較でみると、「できる」は、前回調査に比べ、8.6ポイント高くなっている。

② 災害時要援護者登録名簿の周知状況

問50 あなたは、災害時要援護者登録名簿をご存じですか。(1つに○)

<図表 79> 災害時要援護者登録名簿の周知状況 (経年比較)



災害時要援護者登録名簿の認知度をたずねたところ、「知っている」(10.0%)は1割、「名称は聞いたことがある」(14.8%)は1割台半ば近くとなっている。

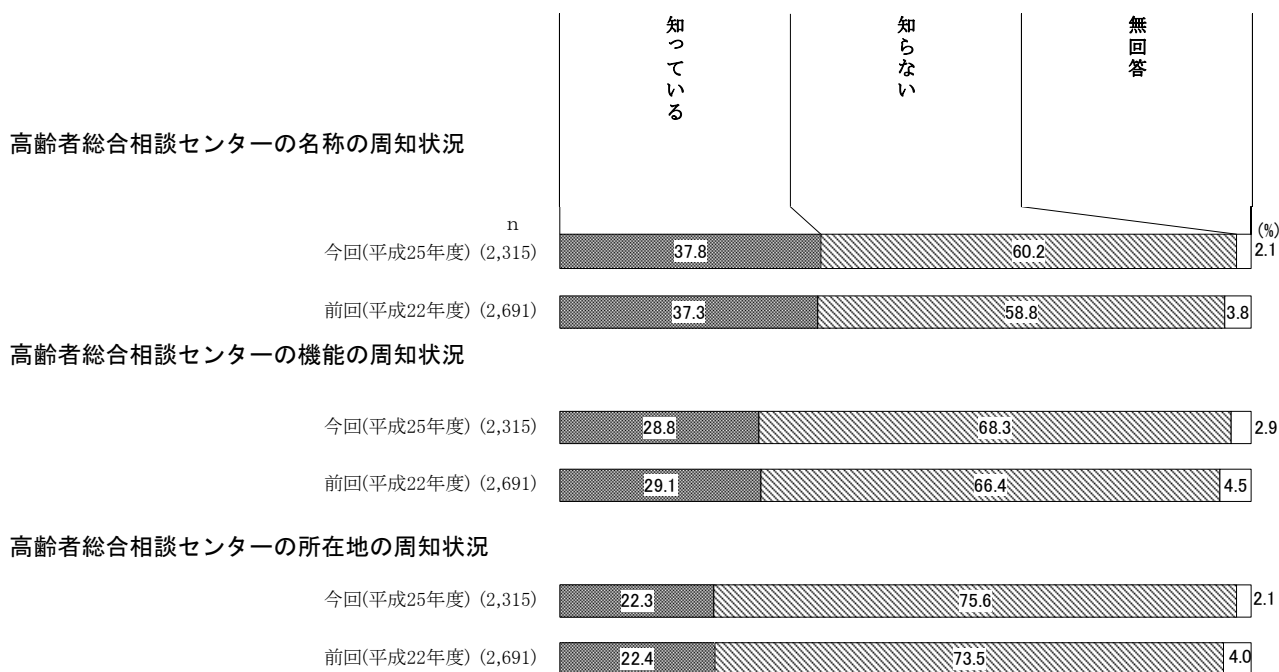
経年比較でみると、「知っている」は、前回調査と大きな差は見られない。

(14) 健康・福祉サービスの情報や相談窓口について

① 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の周知状況

問51 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか。(1つに○)  
 問52 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか。(1つに○)  
 問53 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか。(1つに○)

<図表 80> 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の周知状況 (経年比較)



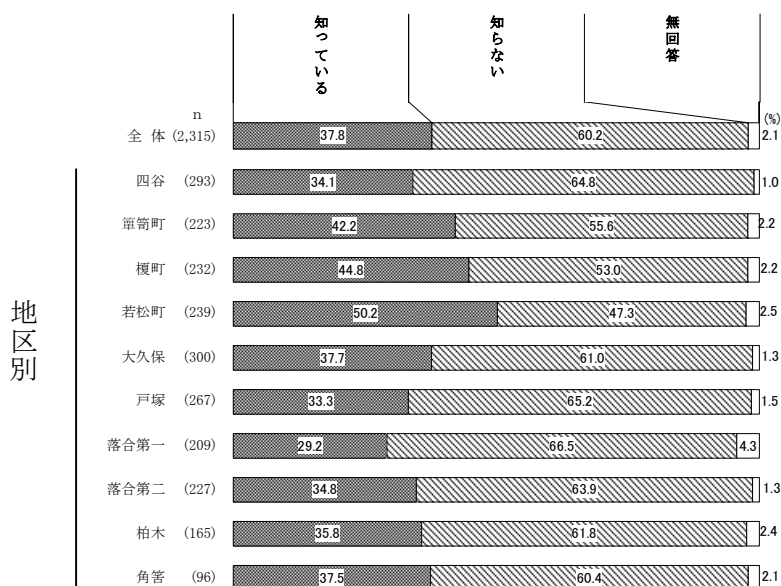
高齢者総合相談センターの名称の認知度をたずねたところ、「知っている」(37.8%)は3割台半ばを超える。

高齢者総合相談センターの機能の認知度をたずねたところ、「知っている」(28.8%)は3割近くとなっている。

高齢者総合相談センターの所在地の認知度をたずねたところ、「知っている」(22.3%)は2割強となっている。

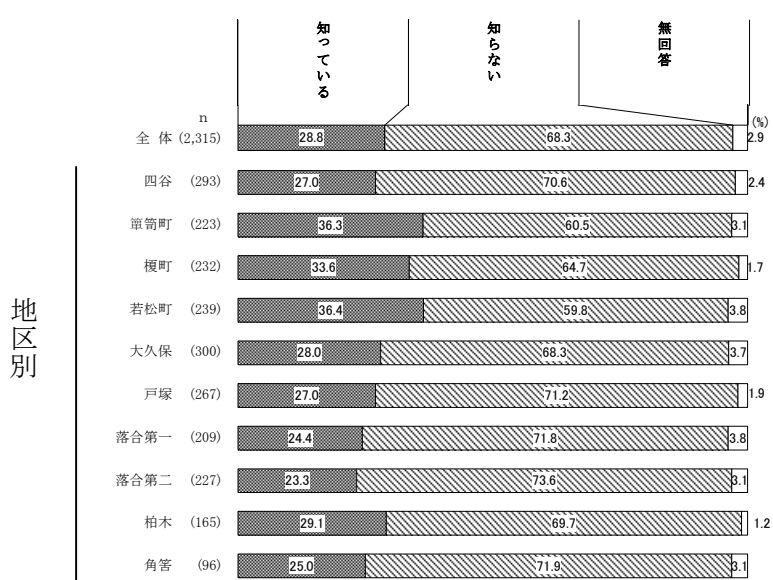
経年比較でみると、高齢者総合相談センターの名称、機能、所在地の認知度とも、前回調査と大きな差は見られない。

<図表 81> 高齢者総合相談センターの名称の周知状況 (地区別)



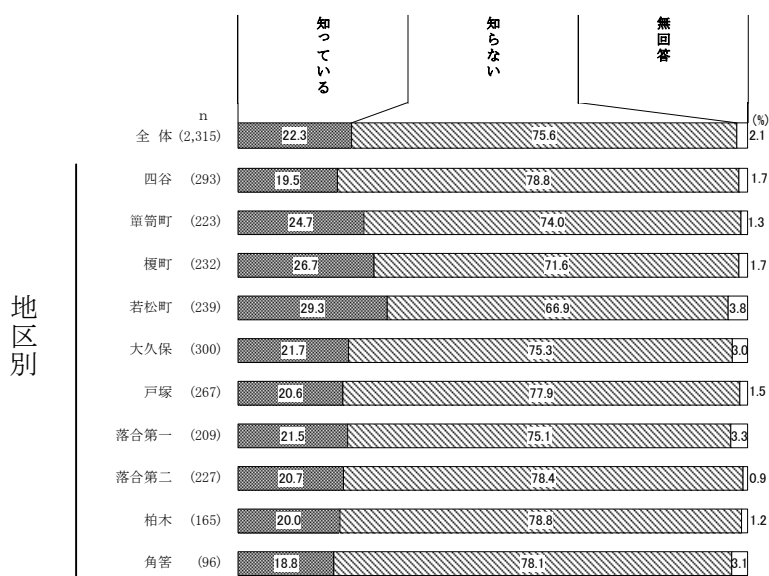
地区別で見ると、「知っている」は、若松町 (50.2%) で約5割と高くなっている。

<図表 82> 高齢者総合相談センターの機能の周知状況 (地区別)



地区別で見ると、「知っている」は、単箭町 (36.3%)、若松町 (36.4%) でそれぞれ3割台半ばを超え、高くなっている。

<図表 83> 高齢者総合相談センターの所在地の周知状況 (地区別)

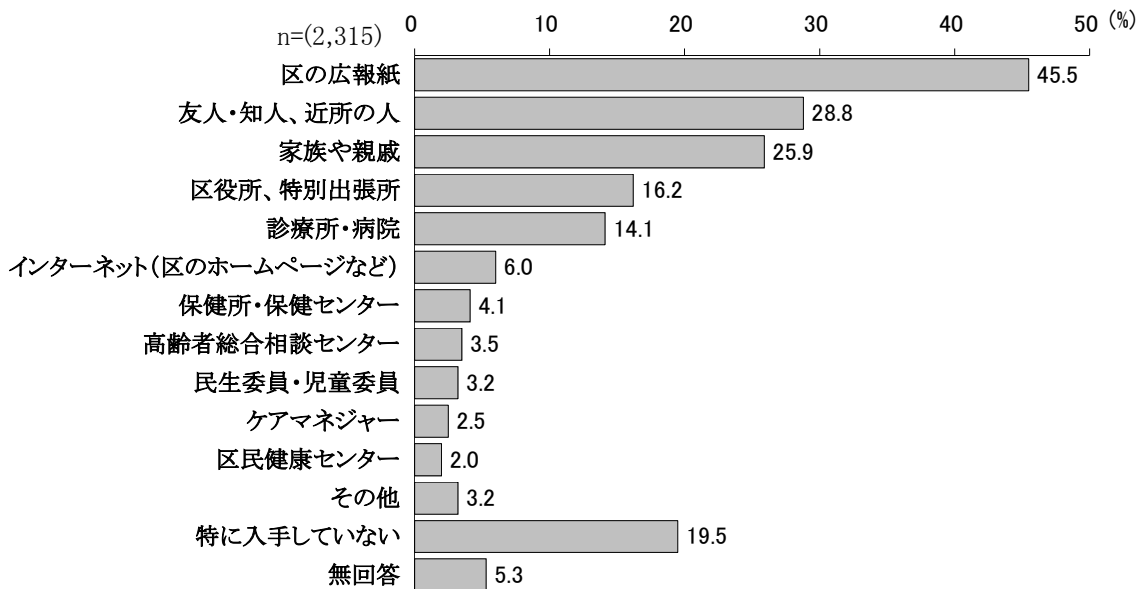


地区別で見ると、「知っている」は、若松町 (29.3%) で3割弱と、高くなっている。

②健康や福祉サービスに関する情報の入手手段

問54 あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 84> 健康や福祉サービスに関する情報の入手手段

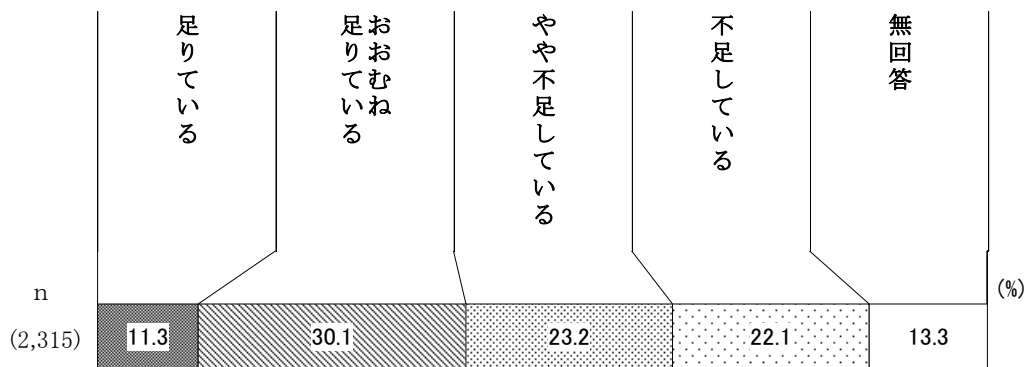


健康や福祉サービスに関する情報の入手手段をたずねたところ、「区の広報紙」(45.5%)が4割台半ばで最も高く、次いで、「友人・知人、近所の人」(28.8%)が3割近く、「家族や親戚」(25.9%)が2割台半ばとなっている。

③健康や福祉サービスに関する情報量の充実度

問55 あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報量は足りていると思いますか。(1つに○)

<図表 85> 健康や福祉サービスに関する情報量の充実度



入手している健康や福祉サービスに関する情報量の充実度をたずねたところ、「おおむね足りている」(30.1%)が約3割と最も高く、次いで、「やや不足している」(23.2%)が2割台半ば近く、「不足している」(22.1%)が2割強となっている。

## ④高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問56 最後に、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、614人からの回答があった。回答の多かった内容は、「介護保険・保険料について」「健康・介護予防について」「情報提供・相談について」の順であった。

各事項（その他除く）について、以下にいくつかの意見を示す。

介護保険・保険料について	健康・介護予防について	情報提供・相談について	サービスについて	高齢者向け施設について	高齢者施策について	医療・保健について	アンケートについて	住まいについて	人材・ボランティアについて	災害時・緊急時のこと	認知症について	家族等介護者について	その他
165	113	97	87	73	62	40	31	22	14	11	8	7	127

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

## 【介護保険・保険料について】

- ・介護保険を利用していない人の保険料の軽減等はないのか。
- ・収入の無い者から保険料を徴収するのは考え直していただきたい。助け合いと言うなら、65歳以下に、もう少し負担してもらっても良いのではないか。
- ・介護保険サービスの水準は、今までどおり維持すべきと思う。
- ・保険料が値上がりするのは、止むを得ないと考える。
- ・介護保険制度が、いつまでも続く事を希望する。
- ・要介護・要支援の認定が厳しいと思う。

## 【健康・介護予防について】

- ・自身の健康状態についてよく考え、異状があった場合は早目の手当を行い、心身ともに積極的に行動していくことが、人生の楽しみになるような行政の助力を希望する。
- ・あまり年齢を考える間もなく毎日が過ぎたようで、健康や福祉サービスについての考えが足りなかった。
- ・介護予防に力を入れてほしい。予防に優ることはないと思う。
- ・65歳になったばかりで、全く健康なので、80歳以上を対象にしたようなアンケート内容は、高齢者扱いされているようで、とても不快であった。

- ・今のところ、健康で元気に生活しているが、病気になったり介護が必要になったりした場合に、情報が豊富にあり、選択肢が多くあることを希望する。

**【情報提供・相談について】**

- ・高齢者の福祉計画、事業計画に関する情報に対して、余りにも無知、無関心であったことを恥じている。これからは、関心をもって大いに勉強していきたい。
- ・今は元気なので関心がなかった。しかし、これからどうなるか分からないので、区の広報誌等で分かり易く知らせてほしい。
- ・自分でできない事が多くなった時、解決するための相談をしやすいようにしてもらいたい。
- ・現在、高齢者総合相談センターで、大変親切な対応をしていただき、感謝している。

**【サービスについて】**

- ・現在は元気なので、さしあたり要望はない。しかし、介護が必要になった時、サービスが受けられるか心配である。
- ・現在は何の不自由も特にない日々だが、これから先は不安も募る。不安を少しでも取り除き、明るい考え方ができる方向にさせていただく福祉サービスを期待する。

**【高齢者向け施設について】**

- ・家での老親の介護は、子どもにとってはとても大変である。私も有料老人ホームに入ろうと思っているが、「将来まで良いホームかどうか」を見極めるのは難しいので躊躇している。
- ・65歳現在は仕事を持っているため、現実味がないが、漠然とした不安感はある。財産を持たないため、動けなくなった時に入れる高齢者向け施設があるか否か、気になる。

**【高齢者施策について】**

- ・夫婦ともに後期高齢者なので、老々介護になったら困ると思う。その時、支援してくれる制度がどんどん増える事を望んでいる。
- ・高齢者福祉施策や介護保険制度の充実が必要だが、高齢者を一律に無能力者として取り扱うことには腹立たしさを感じる。現在、まだ働く能力のある高齢者をもっと活用することで、人手不足、年金問題の解消に繋がる筈である。

**【医療・保健について】**

- ・現在、妻ががんで入院中であるが、自宅での療養中は、介護等の相談をした際に、いろいろ親切に指導いただいた。
- ・高額療養費制度には感謝している。若い時は、病気一つしないのに健康保険料を払って嫌になったこともあったが、高齢になってありがたく感謝している。

**【アンケートについて】**

- ・現在健康であるのに、アンケート記入が進むと、その度に気分が滅入った。身辺整理は心がけているが、まだまだ20年は元気に飛び廻りたいと思っている。
- ・返信用封筒が小さすぎる。



【住まいについて】

- ・高齢者専門住宅を増やしてほしい。
- ・高齢者向けのケア付住宅を充実させてほしい。

【人材・ボランティアについて】

- ・立派な施設ができて、そこで働く福祉・介護の担当者が頻繁に変わったり辞めたりする例が多いようだ。その主な原因は、福祉・介護労働者の給与水準が低く、生活に不安があることだと思われる。区としても優れた福祉・介護サービス能力のある人達の確保に向けて、適切な給与補助を行う等の工夫をしていただきたい。
- ・健康な高齢者が多くいるのだから、楽しみながら活動できる場所（例えば、子ども達と遊びながら楽しく過ごせる幼稚園・保育園等）があれば良いと思う。

【災害時・緊急時のこと】

- ・身内もない一人暮らしという不安な境遇なので、そうした高齢者に対する気配り（緊急時の連絡）をしてもらえることを希望する。
- ・今は元気だが、病気になった時に一人で身の回りの事が出来るか心配である。最初にどこに連絡をすれば良いかを思い出せるか少し心配である。

【認知症について】

- ・明らかに認知症と思われる人が一人で歩いている。何とか声かけてあげたいが、怖くてできない。
- ・この頃“あれ”“それ”“なんだっけ”が常套語である。物を探す事（時間）も多くなっている。気軽に見守って助けてくれる専門家が訪問してくれたら心強いと思う。

【家族等介護者について】

- ・介護する娘も、もはや前期高齢者であり、先行き不安である。